

文部科学省委託事業

令和2年度地域との協働
による高等学校教育改革
推進事業（地域魅力化型）

まっナビ・プロジェクト 研究開発実施報告書

第1年次

令和3年3月

長崎県立松浦高等学校

(巻頭言)

「知らず知らずのうちに学んでいた」

長崎県立松浦高等学校 校長 小野下 和宏

松浦高校（松高）は、長崎県松浦市内にある唯一の高校です。

振り返ってみますと、入学者の減少を受けて、平成25年度、松浦市による、松浦高校の生徒（松高生）を対象とした就学支援制度が創設されました。また、翌26年には、それまでの普通科に加えて、中学生の多様な進路希望に対応できるよう、商業科が併設されました。そして、平成29年度から、松浦市と協働して、松高2年生が地域課題について調査・考察し、解決策を発表する教育活動～「まつナビ」～が始まりました。

本冊子で報告いたします「まつナビ・プロジェクト（MNP）」は、令和元年まで3年間取り組んだ「まつナビ」を進化・深化させた、新たな地域課題解決型学習なのです。

MNPの目的は、松高生の「地域を愛し大切に作る姿勢の育成」「課題解決能力を高める」ことにあります。私たちは、「まつナビ」で培った課題研究の進め方と生徒の支援の在り方を充実させることができれば、この目的の達成を図ることができるであろうとの仮説を立て、以下の2つの研究開発単位に沿って、研究開発を進めることといたしました。

- I 高校3年間を通して地域課題解決型学習を充実させるカリキュラムの開発
- II 地域課題解決型学習を組織的に支援する体制づくり

本年度は、新型コロナウイルスの影響により、当初の計画通りにいかない時期もありましたが、県教育委員会、コンソーシアム及び運営指導委員会をはじめとする関係の皆様のご支援、ご協力により、研究開発を一步一步前に進めることができました。心から感謝を申し上げます。

本年度の課題研究活動の集大成として、令和2年12月、松浦市文化会館（ゆめホール）にて、松高1・3年生からの課題研究の概要報告、2年生全員（11班）の課題研究の発表を主な内容とする「課題研究発表会」を開催しました。発表会において、2年生は、「私たちの班の課題研究について一緒に考えてください」との姿勢で、各班7分間のプレゼンテーションを行い、ゆめホールを「ふるさとの今、これから」について考える「学びの場」にしてくれました。

課題研究活動に取り組んだ生徒からは、「『問題発見→研究→解決策を導く』という探究学習の重要な要素を、知らず知らずのうちに学んでいた」「松浦に住んでいても気づかないことを、MNPを通して気づくことができた」との感想が寄せられました。これらの感慨を得た生徒たちは、MNPを通して、メタ認知を含む「大きな学び」を経験できたのではないのでしょうか。

本校の研究開発は緒に就いたばかりです。本年度の研究開発を検証した上で改善策を検討し、松高生を支援して下さっている地域の皆様、地域課題の解決に向けて日々研究に取り組んでいる松高生と共に、プロジェクトの充実を図っていきたいと考えております。

松高の今後の教育活動の中心を担う「まつナビ・プロジェクト」に、ご意見とご指導をいただくとともに、ご支援を賜りますよう、広くお願い申し上げます、巻頭の言葉といたします。

令和2年度地域との協働による高等学校教育改革推進事業(地域魅力化型) 長崎県立松浦高等学校 研究開発実施報告書(第1年次) 目次

巻頭言	1
第1章 研究開発計画及び研究開発の概要	
1. 本校の概要	4
1-1 所在地	
1-2 設置課程及び在籍生徒数(令和2年4月)	
1-3 学校経営方針	
1-4 令和2年度ランドデザイン	
2. 研究構想～研究の目的と仮説～	8
3. 令和2年度研究開発の実施計画	10
4. 令和2年度研究開発の概要	12
第2章 研究開発の内容①(研究開発単位Ⅰ)	
1. はじめに	14
1-1 研究開発単位の設定	
1-2 活動目標	
1-3 活動の概要	
2. プレまつナビ(第1学年)	15
2-1 研究開発のねらい	
2-2 令和2年度の実践活動	
2-3 実践報告	
2-4 成果と課題	
3. まつナビ(第2学年)	33
3-1 研究開発のねらい	
3-2 令和2年度の実践活動	
3-3 実践報告	
3-4 成果と課題	
4. ポストまつナビ(第3学年)	59
4-1 研究開発のねらい	
4-2 令和2年度の実践活動	
4-3 実践報告	
4-4 成果と課題	

第3章 研究開発の内容②(研究開発単位II)

1. はじめに	63
1-1 研究開発単位の設定	
1-2 活動目標	
1-3 活動の概要	
2. コンソーシアム	65
2-1 構成	
2-2 活動実績	
3. 運営指導委員会	69
3-1 構成	
3-2 活動実績	
4. カリキュラム開発等専門家	71
5. 地域協働学習実施支援員	72

第4章 まつナビ・プロジェクトの検証、次年度に向けて

1. 今年度の目標設定についての検証	73
2. 次年度に向けて(課題改善の方向性)	75

参考資料

1. 生徒の意識調査～今年度4月、1月実施のアンケート調査結果～
2. まつナビ・プロジェクトだより



各種発表会の要項や本冊子に掲載した
★のついたワークシート等は、本校 Web
ページからダウンロードできます。

<http://www2.news.ed.jp/section/matsuura-h/>

まつナビ・プロジェクト

検索

CLICK!



第1章 研究開発計画及び研究開発の概要

1. 本校の概要

1-1 所在地

〒859-4501 長崎県松浦市志佐町浦免738-1

1-2 設置課程及び在籍生徒数(令和2年4月)

	1年	2年	3年	計
普通科	63	42	66	171
商業科	35	17	35	87
合計	98	59	101	258

1-3 学校経営方針

1 校訓

「自己開拓」に全力を注ごう。
正しい人間関係をきずいていこう。
よい市民性を身につけよう。

2 教育方針

長崎県教育方針に則って、国際交流の歴史が息づく郷土の伝統と文化を継承し、豊かな自然を守るとともに、命の尊さや個人の尊厳を重んじ、公共の精神を身に付け、我が国や世界の平和と発展に貢献していこうとする調和のとれた人間の育成をめざす。

3 育成したい生徒像

- (1) 確かな学力を身につけ、自らの進路実現に向けて努力することのできる生徒。
- (2) 品性を備え、人との絆の大切さを知り、思いやりや感謝の気持ちを表すことのできる生徒。
- (3) ふるさとを愛し、自己の役割と責任を自覚し、将来地域や社会に寄与・貢献できる生徒。

4 本年度の目標

(1) 生徒指導の充実と教育相談の推進

- ① 生徒の命、健康・安全を守ることを最優先とするとともに、基本的な生活習慣の確立をはかり、心身ともに逞しい、心豊かな生徒を育成する。
- ② 観察と面談・研修を通し、生徒理解に基づいた支援に努め、生徒との信頼関係を構築する。
- ③ いじめ防止基本方針に基づき、いじめの早期発見、解消に努める。

(2) 学力の充実・向上と進路希望の実現

- ① 「分かった」「できた」という喜びや感動を通し、学ぶ楽しさと意義を理解させる。あわせて教員自らが指導力向上をはかり、授業改善を進める。
- ② 3年間を見通した学習計画を作成し、学習習慣の確立と基礎学力の定着を図る。
- ③ キャリア教育の充実に努め、職業観や勤労観を育成し、進路意識の向上を図る。

(3) 地域との協働的学習の充実

- ①地域との協働的学習に、計画的に継続して取り組ませる。
- ②ふるさと・長崎を大切に思う心を育て、将来地域のために貢献しようという人材を育成する。
- ③地域の課題解決型学習に取り組ませることにより、主体的で対話的で深い学びを実現する。

(4) 生徒が主役の学校行事・生徒会活動の推進と、部活動の充実

- ①学校行事の内容等を工夫し、魅力ある学校づくりを推進する。
- ②生徒会活動の活性化を推進し、生徒の自発的・自主的な活動を支援する。
- ③部活動に積極的に参加し、「文武両道」を実践できる生徒を育成する。

(5) 広報活動の充実と開かれた学校づくりの推進

- ①同窓会・PTA・地域との連携を深めるとともに、地域の行事等に積極的に参画する。
- ②学校行事や部活動を通して、小・中学校や地域との交流を積極的に進める。
- ③オープンスクール、Webページや学校だより等を充実させ、松高のPRを進める。

(6) 教職員の「ワーク・ライフ・バランス」の推進

- ①教職員が人間性や創造性を高め、生徒の成長に資する教育活動を持続的に行うことができる環境をつくる。

1-4 令和2年度グランドデザイン

次の(1)～(4)をねらいとした「令和2年度グランドデザイン」を作成した（7ページ参照）。

(1) 「松高の特色」をわかりやすく示す

本校が目指している教育（人育て）とはどのようなものなのか、そのためにどのような活動を行っているのか、できるだけシンプルにまとめ、「松高は、このような学校である」と示す。

(2) カリキュラムマネジメントの契機とする

カリキュラムとは「松高の教育活動全般」を、マネジメントとは「PDCAの各段階をへて、教育活動をよりよくしていくこと」を意味しており、「グランドデザイン」を各種教育活動のP（プラン）の「基礎となるもの」と捉え、「学校教育全体を鳥瞰できる図」として作成する。

「グランドデザイン」で示した理念（基本計画）を踏まえ、教育活動全般についてPDCAサイクルを回しながら、着実に改善を図り、ビジョンに示す「変化の激しい時代を生き抜く力」「ふるさとに貢献する意欲と力を持つ人物の育成」を進めることを目指している。

※（注）P（計画）、D（実践）、C（検証）、A（改善策の策定）を指す。

(3) 生徒と教職員が力をあわせて「魅力ある学舎（まなびや）づくり」を進める

松高生、教職員が「グランドデザイン」を踏まえた教育活動を実践し、その後検証を行い、よりよい学校づくりを進めていく。そのことによって、生徒たちにとって「学びがい」のある、教職員にとって「働きがいのある」、魅力ある学舎（まなびや）をつくっていくこと、あわせて、保護者の皆様や地域の方々とともに教育活動を進め、「ふるさと松浦とともにある」「信頼される」学舎を目指す。

(4) 「松高の魅力」の発信力を高める

「グランドデザイン」を踏まえた各種の教育活動を、「松高の魅力」として、多くの方々に各種媒体を活用してお知らせする。学校全体としての発信力を高め、わかりやすく・見やす

い情報を、中学生や地域の方々に、できるだけ多くお届けし、「グランドデザイン」による教育活動（松高の魅力）を多くの方々に知っていただくことを目指す。

また、「グランドデザイン」は、「求める入学生像」「主な教育活動等」「育成を目指す人物像」のつながりを示すシンプルな構成としている。

「求める入学生像」は、「このような意欲・力（ちから）等を持っている中学生に入学し、学んで欲しい」との、松高としての「入学者を受け入れる姿勢・考え方（アドミッションポリシー）」を示している。松高が入学生に求めているのは、「意欲」であり、その在り方は、一人一人の生徒で異なるが、「がんばりたいことがある」「伸ばしたいもの（力）がある」などの「前向きな姿勢」を求めている。

松高での3年間の「教育活動等」については、「支えあい、伸ばしあう学びの推進」「生徒の進路希望の実現」の2つの目標の達成を目指す、「6つ特色」として整理している（カリキュラム・ポリシー）。松高の教育活動において不可欠となっているのが、「松浦市による就学支援」である。補習費や模擬試験・検定等の費用等、多岐にわたる支援をしてくださっている。

そして、各種の教育活動の中心に置いているのが、高校3年間を通じて地域課題解決型学習を深めていく「まつナビ・プロジェクト（MNP）」である。令和2年度から文部科学省の委託を受け、松浦市や長崎大学などの学校外の機関と連携・協働するコンソーシアムを立ちあげ、学びを進めていく。MNPを松高の教育活動全体とリンクさせ、相互に補完しあうことができるように、計画的に実践を進めていく。また、松浦市内の小中学校や県内外の大学、企業等との連携を図る「開かれた学び」を推進する。下段には、「育成を目指す人物像」として、「松高の3年間で、生徒が身に付けることを目指す力」を示している（ディプロマ・ポリシー）。

校訓にある「自己開拓」「正しい人間関係」「よき市民性」につながる素養、変化の激しい社会を生き抜くとともに、ふるさとに貢献するための資質能力。生徒たちがこれらの力を身に着けることができるよう、卒業までの3年間の教育活動を計画的・継続的に進めていく。

これらを踏まえて、令和2年度の松高のキャッチフレーズを、「松高アイデンティティ 支えあい、伸ばしあう ふるさと松浦とともにある学舎（まなびや）」とし、次の活動に力を入れていくことを示した。松高生は、それぞれの目標に向け、日々の生活の中で仲間たちと支えあいながら力を伸ばしていく。保護者・地域・松浦市などの関係の皆様、そして私たち松高教職員が力をあわせ、松高生をしっかりと支えていく。

特に松高生は、「まつナビ・プロジェクト（MNP）」をはじめとする松高の学びの中で、「ふるさと」について調べ・考え・発表し、ふるさとへの思いと課題解決能力を醸成していく。

令和2年度 グランドデザイン

校訓

- 「自己開拓」に全力を注ごう。
- 正しい人間関係をきずいていこう。
- よい市民性を身につけよう。

設置学科

- 普通科
- 商業科

キャッチフレーズ

松高アイデンティティ
 ~支えあい、伸ばしあう ふるさと松浦とともにある学舎~ まなびや

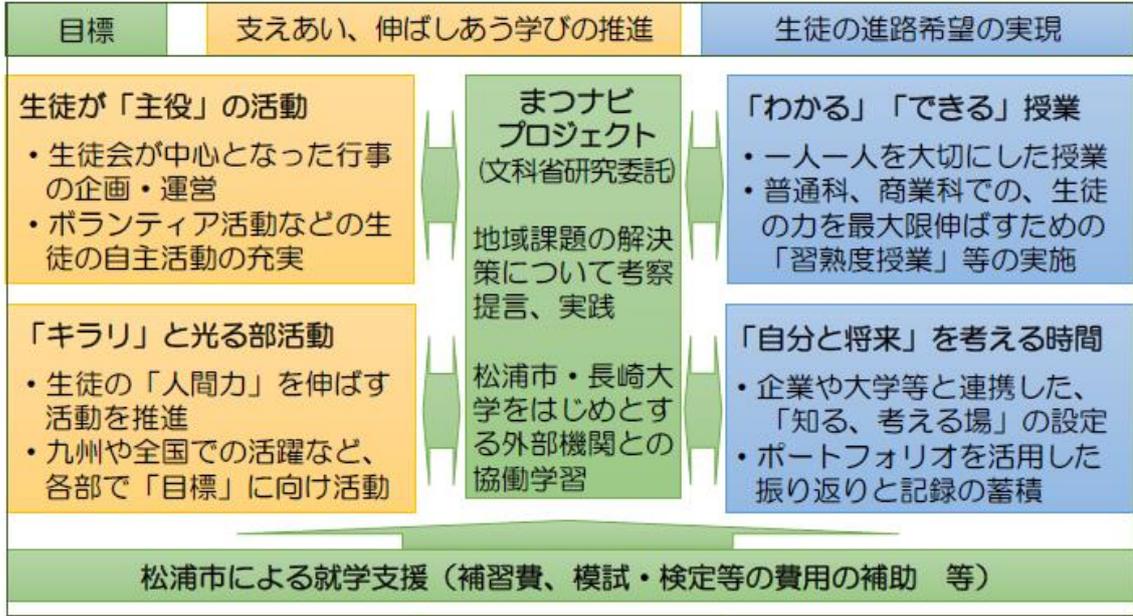
ビジョン

普通科・商業科のそれぞれの学びを進め、変化の激しい時代を生き抜いていく力とふるさとに貢献する意欲と力を持った人材を育成する学校

求める入学生像（次のような「意欲」のある中学生）

- 長所を伸ばしたい、将来の目標を明確にしたい
- 高校の活動（学習、部活動、学校行事等）に積極的に取り組みたい
- 周囲のことを考えた言動をし、感謝を伝えたい
- ふるさと学習を深めたい

主な教育活動等（松高「6つの特色」）



育成を目指す人物像（松高卒業までに身に付けさせる力）

- 自分の将来の夢や目標を持ち、その実現に向けて努力を続ける人物
- 責任感があり、思いやりや感謝の気持ちを表すことのできる品性を備えた人物
- ふるさとを大切に思い、その発展に貢献しようとする意欲を持つ人物

2. 研究構想～研究の目的と仮説～

平成25年度、松浦市内唯一の高校である松浦高校への入学者の減少などもあって、松浦市による、松浦高校の生徒（松高生）を対象とした就学支援制度が創設された。

また、平成29年度から松浦市と松浦高校が協働して、学校の魅力を高めことなどを目指した、地域課題の解決策について調査・考察・発表する教育活動が始められた。

これが「まつナビ」である。

この課題研究活動は、2年生全員を複数の研究班に分け、松浦市役所職員が班毎のファシリテーターとなり、学年担当教職員とチームを組んで生徒の課題研究を支援する体制で始められた。

「まつナビ」を進化・深化させた新たな地域課題解決型学習が、「まつナビ・プロジェクト（MNP）」であり、本プロジェクトの目的及び仮説は、以下のとおりである。

【目的】

- ・ 地域を愛し大切にする姿勢を育成すること
- ・ 課題解決能力を高めること

【仮説】

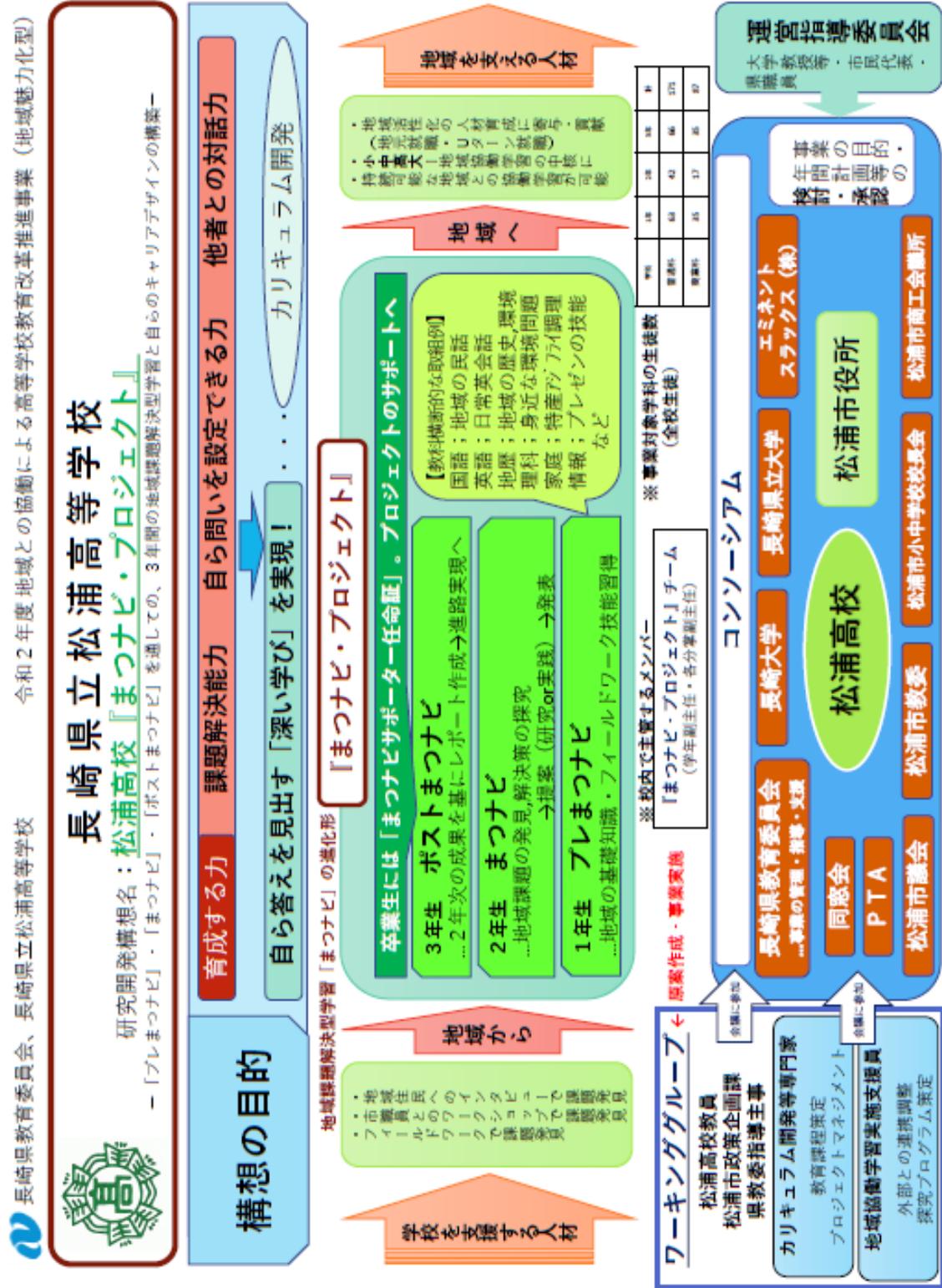
「まつナビ」で培った課題研究の進め方と生徒の支援の在り方を、より充実させることができれば、この目的の達成を図ることができるであろう。

なお、充実を図る方向性として考えられるのは、以下の2項目である。

- ・ 高校2年生だけであった取組を、1～3年生の3年間の継続的・計画的な取組とする
- ・ 生徒の課題研究を組織的に支援する体制を構築する

この仮説に基づき、研究開発の目的を達成するために、次のⅠ、Ⅱの研究開発単位を設けて、研究開発を行うこととした。

- I 地域を愛し大切にする姿勢の育成と課題解決能力を高めることを目指した、高校3年間を通して地域課題解決型学習を充実させるカリキュラムの研究開発
 - ・ 「まつナビ・プロジェクト」の中心となる学校設定科目の研究開発（令和3年度新設）
 - ・ 地域素材を活用した、「まつナビ・プロジェクト」とリンクする授業実践に関する研究開発
 - ・ 小中学校及び大学等との連続性のある学びに関する研究開発
- II コンソーシアムをはじめとする、地域課題解決型学習を組織的に支援する体制についての研究開発



3. 令和2年度研究開発の実施計画

前節の「2. 研究構想～研究の目的と仮説～」を踏まえ、以下の「研究開発の実施計画」を策定し、研究開発を進めた。

■研究開発の実施計画

指定期間	ふりがな	ながさきけんりつまつうらこうとうがっこう				②所在 都道府県	長崎県
令和2～最大3年間	①学校名	長崎県立松浦高等学校					
③対象 学科名	④対象とする生徒数					⑤学校全体の規模	
	1年	2年	3年	4年	計	松浦市唯一の県立高校として、普通科80名、商業科40名を募集し、現在は計253名が在籍している。	
普通科	61	42	65		168		
商業科	35	16	34		85		
⑥研究開発 構想名	松浦高校『まつナビ・プロジェクト』						
⑦研究開発 の概要	<p>長崎県立松浦高校と松浦市が協働で取り組んできた2年生での地域課題解決型学習「まつナビ」に、1年生での「プレまつナビ」、3年生での「ポストまつナビ」を連動させて、生徒の課題解決能力を高めること等を目指した、3年間の連続性のある「まつナビ・プロジェクト」に進化させる。次のⅠ、Ⅱの研究開発単位を設定し、研究開発を行う。</p> <p>Ⅰ 地域を愛し大切に作る姿勢の育成と課題解決能力を高めることを目指した、高校3年間を通して地域課題解決型学習を充実させるカリキュラムの研究開発</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「まつナビ・プロジェクト」の中心となる学校設定科目の研究開発（令和3年度新設） ・地域素材を活用した、「まつナビ・プロジェクト」とリンクする教科指導に関する研究開発 ・小中学校及び大学等との連続性のある学びに関する研究開発 <p>Ⅱ コンソーシアムをはじめとする、地域課題解決型学習を組織的に支援する体制についての研究開発</p>						
⑧研究開発 の内容等	⑧-1 全体	<p>(1)目的・目標</p> <p>従来、2年生だけで取り組んできた「まつナビ」を、3年間を通しての学びとなるように組み直すとともに、地域等と協働を強め、高校生ならではの実践や課題研究に取り組ませることで、地域の活性化を身近に感じさせ、本気で松浦の未来を担いたいと考える人材を育成することを目的とする。</p> <p>また、松浦市唯一の高校であることから、地域に関する知識を身につけさせるとともに、地元の方にインタビューしてその知見を聞き取ったり、地域課題について調査し、その解決策について考察・まとめをし、プレゼンテーションをしたりする実践に取り組ませる。そのことによって、将来的に地域を愛し大切に作る人間性と、生涯にわたり地域課題に向き合い続けようとする姿勢を育むことを目標とする。</p>					

	<p>(2)現状の分析と研究開発の仮説</p> <p>本県では若者の流出や人口減少が著しく、地域を担う人材不足が深刻化している。そのため県内の多くの地域において、高校と地元自治体等が協働して、地域活性化に資する人材の育成に取り組んでおり、これらの取組をさらに充実させ、持続可能なものにするのが求められている。</p> <p>各教科における地域素材を活かした授業実践を含む、3年間を見通した「まつナビ・プロジェクト」の実践を進め、コンソーシアムを中心とした多角的な支援を受けた、地域との協働の機会を増やすことで、校内だけではできない主体的で対話的な深い学びが実現し、地域へ寄与・貢献しようという強い意欲を持ち、高い課題解決能力を身につけた人材が育成される。あわせて、地域課題研究を中心としたカリキュラムと、コンソーシアム構築のノウハウを県内に広く普及させることができる。</p>
<p>⑧-2 具 体 的 内 容</p>	<p>(1) 地域との協働による探究的な学びを実現する学習の実施計画</p> <p>第1学年</p> <p>第2学年で実施する「まつナビ」の実施に向けて、松浦に関する基礎知識やフィールドワークを含む課題研究活動を進める技能を身につけさせる。年間を通じて、地域素材を活用した授業の実践を行い、フィールドワーク等や課題研究発表に関する技能の習得を進め、1年間のまとめとして、2年次における「まつナビ」のテーマを設定する。</p> <p>第2学年</p> <p>地域課題解決を目指した「まつナビ」の実践を行う。フィールドワークや地域との協働活動に基づく調査・研究・実践を進め、中間発表を行う。コンソーシアム等による評価を受けて、テーマ再設定や発表内容の修正後、本発表を行う。いくつかの班は松浦市議会で松浦市長及び市議会議員の前で提言を行う。</p> <p>第3学年</p> <p>第2学年の本発表で提言した内容に関する実践、「まつナビ・プロジェクト」全体を通じた振り返りレポート作成及び小・中学生を対象とした発表等を行う。</p> <p>(2) カリキュラム・マネジメントの推進体制</p> <p>各学年・分掌副主任で組織する「プロジェクトチーム」が中心となって、課題研究活動を含む校内外の教育活動全般の企画・実施・評価について検討する。また、「プロジェクトチーム」、松浦市政策企画課等で組織する「ワーキンググループ」において、実施計画等について再検討の後、コンソーシアムに「まつナビ・プロジェクト」における活動内容等について報告し、今後の研究活動等の進め方について協議を行う。また、コンソーシアムは研究活動への具体的な支援を行う。</p> <p>運営指導委員会による指導助言等を踏まえ、「プロジェクトチーム」が中心となって、修正案を検討し、以後の計画等に反映させる。</p> <p>なお、カリキュラム開発等専門家は持続可能なカリキュラム及び評価に関する助言等を、地域協働学習実施支援員は外部との連携調整や課題研究活動プログラム策定等の支援にあたる。</p> <p>(3) 必要となる教育課程の特例等 特記事項なし</p>

4. 令和2年度研究開発の概要

(1) 研究開発の内容や地域課題研究の内容（類型の趣旨に応じた取組）

類型（地域魅力化型）の趣旨を踏まえ、地域ならではの新しい価値を創造する人材として不可欠となる、地域を大切に作る姿勢の育成と課題解決能力を高めることを目的とした、高校3年間をつなぐ地域課題解決型学習を進めた。

なお、令和2年度の研究開発単位毎の活動目標を以下のように設定し、研究開発を行った。

〈研究開発単位Ⅰ〉

生徒たちの「地域を愛し大切に作る姿勢と課題解決能力」を育成するため、高校3年間をつないだ地域課題解決型学習を進める。

〈研究開発単位Ⅱ〉

地域課題解決型学習を組織的に支援する体制を新たに立ち上げると共に、具体的な研究支援を連携して進める。

(2) 令和2年度の課題研究活動

グランドデザインを踏まえ、地域の方々と協働しながら PDCA サイクルを回す組織マネジメントを進めることによって「教育目標の達成」「学校の魅力化」を目指して、研究開発を行った。

次ページ図は、令和2年度課題研究活動のまとめである。

なお、詳細な研究開発の内容については、第2章および第3章等で示す。

(3) 成果の普及方法・実績

①「まつナビ・プロジェクト（MNP）だより」発行（5回発行）

生徒の活動状況を伝えるために、松浦市内外の小・中学校に配付したり、本校ホームページ上に掲載したりした。

②課題研究発表会（令和2年12月15日実施）

松浦市文化会館で実施。生徒が地域課題の解決を目指して研究・実践した内容について発表した。1・3年生の課題研究の概要報告、2年生11班の課題研究発表を実施した。コロナ禍を踏まえ、参観者は、市内小中学校教職員（各校2名まで）、コンソーシアム関係者に限定した。

③松浦市議会議場発表（令和2年12月24日実施）

YouTubeにて、生徒発表及び質疑応答をライブ配信した。

④生徒の課題研究の内容について、長崎県立高等学校教職員との共有（令和3年1月）

Microsoft Teamsにて、課題研究発表会における生徒発表の動画を配信した。

⑤他都道府県の研究指定校等との共有（令和3年1月）

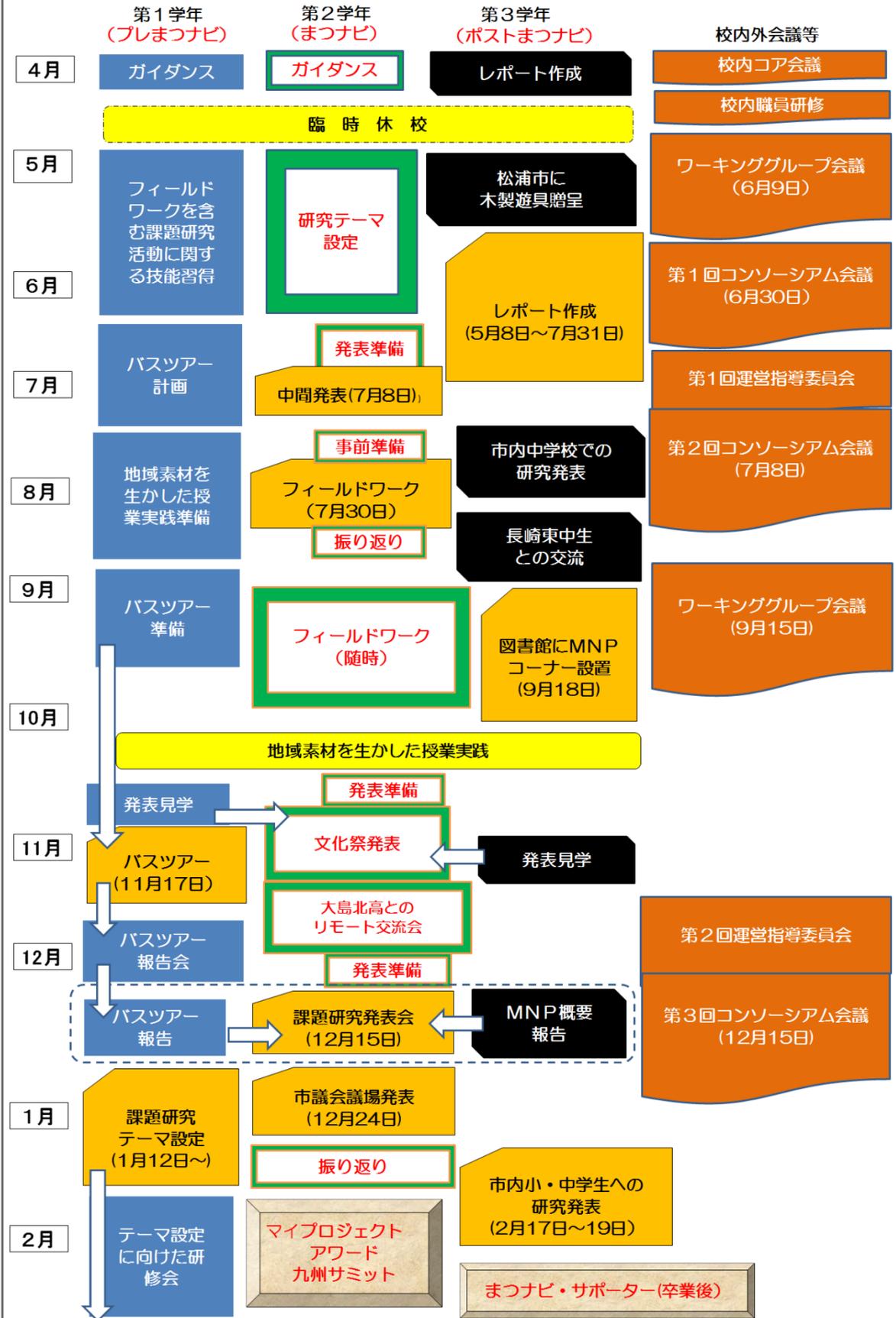
課題研究発表会における生徒発表の動画を編集して郵送した。

⑥長崎県教育委員会主催による「令和2年度研究指定等に係る研究報告会」での発表及び研究協議（令和3年2月18日）

全県立高等学校研究主任等を対象としたリモートによる研究開発内容の報告及び意見交換を行い、研究開発の成果等の普及を進めた。



令和2年度 まつナビ・プロジェクト (MNP) 課題研究活動まとめ



第2章 研究開発の内容①(研究開発単位 I)

1. はじめに

1-1 研究開発単位の設定

まつナビ・プロジェクト（MNP）の研究開発の目的を達成するために、以下の開発単位を設定した。

- I 地域を愛し大切にする姿勢の育成と課題解決能力を高めることを目指した、高校3年間を通して地域課題解決型学習を充実させるカリキュラムの研究開発
- ・「まつナビ・プロジェクト」の中心となる学校設定科目の研究開発（令和3年度新設）
 - ・地域素材を活用した、「まつナビ・プロジェクト」とリンクする教科指導に関する研究開発
 - ・小中学校及び大学等との連続性のある学びに関する研究開発

1-2 活動目標

令和2年度の活動目標は以下の通りである。

高校生の「地域を愛し大切にする姿勢と課題解決能力」を育成するため、高校3年間をつないだ地域課題解決型学習を進める

1-3 活動の概要

(1)地域との協働による探究的な学びを実現する学習内容の教育課程内における位置付け

総合的な探究の時間(毎週火曜日7校時)を中心に、地域との協働による探究的な学びを進めた。校外活動を行う場合には、授業の振替等を行うことによって、連続する活動時間を設定した。各教科・科目においては、「まつナビ・プロジェクト」との相互補完関係を構築することを目指し、地域素材の活用を含む、設定した資質能力の育成を図るための授業実践に取り組んだ。

なお、学校設定教科・科目については、令和3年度からの実施に向け、本年度の研究開発を進めつつ内容の詳細な検討を行い、長崎県教育委員会に実施申請書を提出した。

(2)地域との協働による探究的な学びを取り入れた各科目等における学習を相互に関連させ、教科等横断的な学習とする取組

地域との協働による探究的な学びである「まつナビ・プロジェクト」と各教科・科目の授業との相互補完関係を構築するため、本プロジェクトで育成を図る資質・能力として、「課題発見力(テーマ設定力)」、「論理的思考力」、「コミュニケーション力(傾聴、対話、発信)」を設定した。これらの資質・能力の育成を図るための実践を各教科・科目の授業に組み込むことで、各科目における学習を相互に関連させ、教科横断的な学習とすることを目指した。

令和2年11月の1ヶ月間、取組の充実を図ることを目的として、授業の成果と課題を共有する「公開授業月間」を設定した。全教職員が公開授業を実施し、授業後に授業者と参観者が意見交換を行った。

2. プレまつナビ(第1学年)

2-1 研究開発のねらい

第2学年で実施する「まつナビ」の実施に向けて、松浦に関する基礎知識やフィールドワークを含む課題研究活動を進める技能を身につける。年間を通じて、地域素材を活用するなどの授業実践を行い、フィールドワーク等や課題研究発表に関する技能の習得を進め、1年間のまとめとして、次年度における「まつナビ」の課題研究テーマを設定する。

2-2 令和2年度の実践活動

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
(1)地域素材を活かした授業実践						随時						
(2)フィールドワークを含む課題研究活動に関する技能習得			2回									
(3)松浦市内バスツアー				1回		1回	1回	1回	1回			
(4)テーマ設定										2回	2回	3回

* 4月、5月は、新型コロナウイルスに伴う臨時休業等により課題研究が実施できなかった。

2-3 実践報告

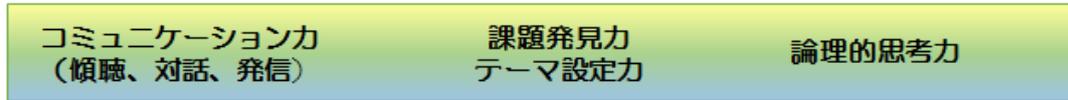
「地域ならではの課題」についての基礎的な知識や地域課題解決型学習を進めるための技能等を身に付けるための校内外の学習を行った。また、次年度に向けた研究テーマ設定に取り組んだ。

(1)地域素材を活かした授業実践

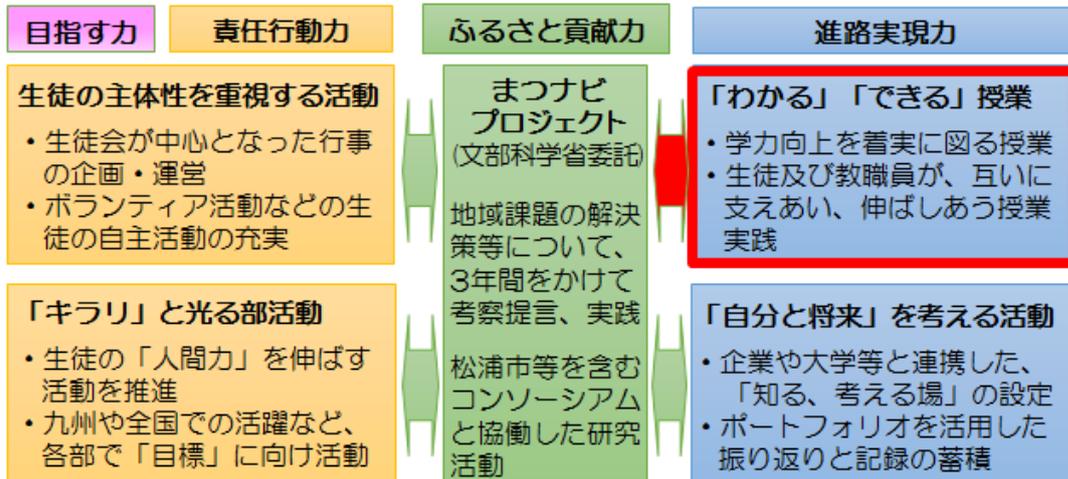
地域素材の活用に加えて、まつナビ・プロジェクト（MNP）で育成を図る資質・能力（「コミュニケーション力」、「課題発見力・テーマ設定力」、「論理的思考力」）の育成を目的とした授業の準備を9月以降全学年で進め、11月に全教職員による公開授業及び意見交換を行った。

■本校の教育活動において、育成を図る資質能力

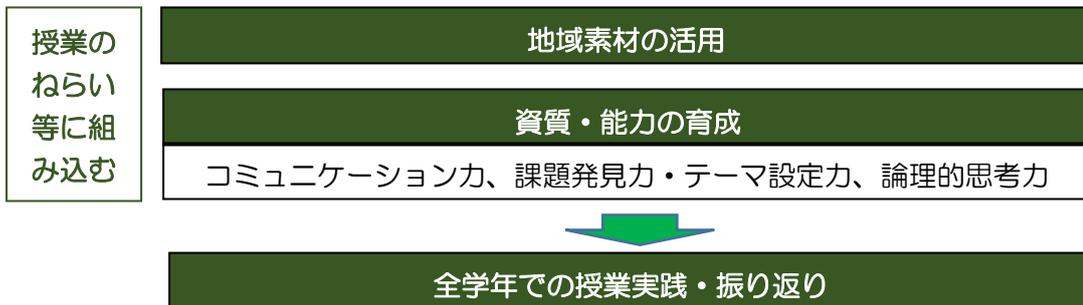
松浦高校の教育活動において、育成を図る資質能力



主な教育活動



■「まつナビ・プロジェクト」とリンクする教科の授業実践についてのイメージ



【授業実践例】

教科・科目 実施日	授業内容と目標
国語総合 11月10日	松浦にまつわる民話と別の地方の民話を比較し、相違点や類似点を考えることができるか
数学 11月11日	設定した課題に対して、現状と与えられた条件を把握し、そこから解決のための見通しを立てられるか
英語 11月20日	SDGsに関する課題を、ブレインストーミングを通して考え、問いを考えて英語で表現できるか
地理B 11月20日	松浦市の水産業のグラフを見て、そのデータを多角的に読み取り、そこから問題（問い）を作成することができるか

(2)フィールドワークを含む課題研究活動に関する技能習得

1年生がまつナビ・プロジェクトの概要やその進め方を知ることがを目的として、6月9日に校長による講義を行い、6月15日には、松浦市職員によるKJ法等を使った基礎的な課題研究の手法を学ぶ研修会を実施した。

■校長による講義



★研修会で使用したワークシート

令和2年度「まつナビ・プロジェクト (MNP)」について

1 小中学校での「ふるさと」に関する学習 (覚えていること)

時期	内容・取り組んだこと	時期	内容・取り組んだこと
小学校()年生		中学校()年生	

2 松浦について考えてみよう

松浦といえば…	⇒	アピールできているところ	⇒	こうしたらいいのに…

■松浦市職員によるKJ法等を使った基礎的な課題研究の手法を学ぶ研修会



(3)松浦市内バスツアー

松浦市の現状を知り、歴史等についての情報収集を行うことを目的として、生徒が企画した「陸、水、街、島」の4つルートに分かれてバスツアーを実施し、見学した内容等をまとめ、発表会を行った。

■生徒によるツアー企画（例：令和2年7月16日）



◇活動計画（令和2年7月16日）

※事前準備

- ・グループ分けを行い、生徒に提示しておく。
Aは松浦市内の中学グループ。Bは松浦市外の中学グループ。
- ・各グループで進行役と記録係を決めておく。
- ・進行役もしくは記録係には前日に計画表を渡し、翌日の流れを説明しておく。
- ・模造紙（各グループに一枚）・付箋・ペン

時刻	時間	内容
8：50～	5分	1時間目の目的・方法の説明、資料配付
8：55～	20分	KJ法 A：中学校でやった郷土学習・職場体験について →内容・方法・成果・評価 などを付箋で出し合う。 B：中学校でやった郷土学習・職場体験について →内容・方法・成果・評価 などを付箋で出し合う。
9：15～	15分	A：ワークシートIまとめ（記録係） B：ワークシートIまとめ（記録係）
9：30～	10分	休憩 移動（Bは第2パソコン室へ）
9：40～	5分	2時間目の目的・方法の説明、資料配付

9:45~	15分	A:各班の進行係と記録係が、ワークシートⅡをもって、他の班の模造紙を見に行き、班員から説明を受ける。 残っているメンバーは来た人に模造紙の内容を説明する。 B:各班の進行係と記録係が、ワークシートⅡをもって、他の班の模造紙を見に行き、班員から説明を受ける。 残っているメンバーは、松浦について検索する。
10:00~	15分	バスツアーで行きたい場所を班全員で考える。 A:自分たちの班で出た情報をヒントに! →「もう一度行ってみたい」 他の班の情報をヒントに! →「面白そうだから行ってみたい!」 B:各自が検索した結果をつきあわせる。
10:15~	5分	A:ワークシートⅡまとめ(記録係) B:ワークシートⅡまとめ(記録係)
		ワークシートⅠ・Ⅱと模造紙・付箋を担当に渡す。



★ワークシートⅠ

7/16(木) プレまつナビ ワークシートⅠ

班

バスツアーに向けて～中学校の地域学習を振り返ろう!～

進行役() 記録係()

その他メンバー()

	歴史	自然	産業 (農業、漁業、工業など 見学した企業でもよい)	文化 (地元の祭り、伝統行事、 言い伝え、方言など)
中学校のときに やった地域学習				
方法 例:インタビュー、調べ学習、 実際に体験した……など				
地域学習を通して わかったこと				
中学校のときの 地域学習の感想				



★ワークシートⅡ

7/16(木) プレまつナビ ワークシートⅡ

A 班

バスツアーに向けて ～行きたい場所を考えよう！～

進行役 ()	記録係 ()
その他メンバー ()	

1. 他の班と情報交換をしよう！

- ・進行役 & 記録係……このプリントを持って、他の班の模造紙を見に行き、班員の話も聞く！
(良いなと思ったこと、感じたことをメモ欄に書く！)
- ・その他のメンバー……来た人に、模造紙に書いた内容を説明する！

<メモ欄>

2. バスツアーで行きたい場所を班で考えよう！

- ・進行役 & 記録係が集めてきた他の班の情報も参考に、バスツアーで行きたい場所を話し合おう！

行きたい場所	
やりたいこと (どういうことを学べるか)	
行きたいと思った理由	

7/16(木) プレまつナビ ワークシートⅡ

B 班

バスツアーに向けて ～行きたい場所を考えよう！～

進行役 ()	記録係 ()
その他メンバー ()	

1. 松浦についてパソコンで調べてみよう！

- ・松浦の歴史・自然・産業・文化など、松浦の気になるところについてパソコンで調べてみよう！
調べてわかったことは下の枠の中に書こう！

2. バスツアーで行きたい場所を班で考えよう！

- ・それぞれが調べた松浦に関する情報をもとに、バスツアーで行きたい場所を話し合おう！

行きたい場所	
やりたいこと (どういうことを学べるか)	
行きたいと思った理由	

◇生徒の活動を集約

	A 1	A 2	A 3	A 4	A 5	A 6
行きたい場所	モンゴル村	①平戸2DAYワイーク ②エアバッグ工場	元寇の防壁(壘壁)	元寇について知れるところ	①エミネント ②鷹島の元寇資料館	①鷹島 ②福島 ③青島
やりたいこと	きれいな露の写真を撮りたい		防壁を見る。触る。			①元寇を見る モンゴル村 ②棚田を見る ③魚を見る
どういうことを学べるか	松浦の自然を改めて知る	①松浦と松浦以外の違いを学びたい ②地域の産業を知る		使われた道具、状況、歴史	①松浦高校の制服がどのようにできているのか。 海外との関係	
行きたい理由	名前に惹かれた 鷹島との交流がほとんどない	普段できないことができるらしいから	行ったことがない、見たことがないから。		①松浦高校の制服を作ってくださっているの、もっと詳しく知りたいから。 ②元寇について鷹島でも学びたいと思ったから。 今と昔では海外との関係がどのように変化したのか知りたいから。	①もっと知りたいから ②観光客がくるから ③知らないから。
	A 7	A 8	A 9	A 10	A 11	A 12
行きたい場所	鷹島 福島	①鷹島 ②中興化成(今福)	①民族資料館(鷹島) ②白石水産	じゅ昌寺	九波	落合の滝
やりたいこと		①元について詳しく知りたい。 ②世界でも有名なフッ素樹脂を見たい。		歴史		
どういうことを学べるか	歴史	①鷹島の良さや歴史	①元寇について ②養蜂をどのように行っているのか。	使われた道具、状況、歴史		いつ頃できたのか。 何が目的で作られたのか。
行きたい理由	松浦市なのに行ったことがなく歴史も知らないから。	①行ったことがないから。 ②近くにある有名企業をもっと知りたいから。	①松浦で起きた大きな戦いなので興味深いから。 ①中学生の頃はスタスタと進んで詳しく学んでいないから。 ②魚の養殖をしたことがないから。		もう一度見学して、もっと細部まで知りたいから。	鷹島に海や川がなく、見たことがないから。
行きたい場所	龍王の滝、落合の滝、鷹島肥前大塚、青島、壘壁、エンマキ					

これらの活動をもとに、ファシリテーター（教職員、松浦市職員等）と生徒が協議を進め、バスツアーのルートを、主に松浦市内陸部（炭鉱等）を中心とした「陸のルート」、松浦市を流れる志佐川の上流まで行く「水のルート」、平戸市街地と松浦市街地を比較する「街のルート」、鎌倉時代の元寇で知られる鷹島を調査する「島のルート」の4つに分けて、バスツアーを実施することとした。以下がツアーの内容と、その4つのルートでの実際の活動の概要である。

■ ツアー内容（見学先）

ルート名	見 学 先
陸	風力発電所→JR九州ファーム→世知原炭鉱資料館等
水	志佐川河畔公園→笛吹ダム→柚木川内キャンプ場等→市役所水産課講話
街	平戸市街地→松浦市街地
島	鷹島→松浦市立埋蔵文化センター→モンゴル村等→石材店見学

◇陸のルート（世知原炭鉱資料館）



【生徒の感想】

○今回のバスツアーでは、松浦の炭鉱について沢山のことを知ることができました。

○九州ファームでは、太陽パネルや風車を使って農業をしていました。

○世知原炭鉱では、その時代に使われていた道具や写真、洞窟にも入ることができました。

○石炭を実際に触ってみることができ、いい経験になりました。

◇水のルート（志佐川・笛吹ダム）



志佐川の現状

○アピールできること △改善が必要なこと

生徒の感想

- △休憩場所（ベンチ等）が少ない
- △川の中の一部が手付かずの状態となっている
- △看板などで道の情報がほしい（□□まであと何m。など）
- いろいろな生物がいる

生徒の感想

- 景色がよかった
- ところどころ休憩所があった
- △滑りやすい
- △危険な石が多い



笛吹ダム



柚木川内キャンプ場

生徒の感想

- 滝に光がさして神秘的
- バンガローの中がきれい
- △火が使えない
- △ここまでの道案内がない

生徒の感想

- ゴミが落ちていなかった
- 散歩しやすい
- △遊具が少なく、汚い
- △ベンチが汚れていた



つきの島公園

◇街のルート（平戸市街地）観光客目線と住民目線で比較

平戸市街地



松浦市街地



平戸と松浦の比較～住民目線～

平戸

- ・車の通る数が少ない
- ・歩いている人多い
- ・歩きたくなるような街並み、歩道が広い
- ・病院、薬局、老人ホームが多い
- ・スーパーなどは少ない

松浦

- ・車の通る数が多い
- ・歩いてる人はほとんどいない
- ・歩道が狭かったり、平らではないから危険
- ・病院、薬局、老人ホームが少ない
- ・スーパーは志佐にたくさんある

10

平戸と松浦の比較～観光客目線～

【感想】 松浦

◎地元の方の話を聞いて

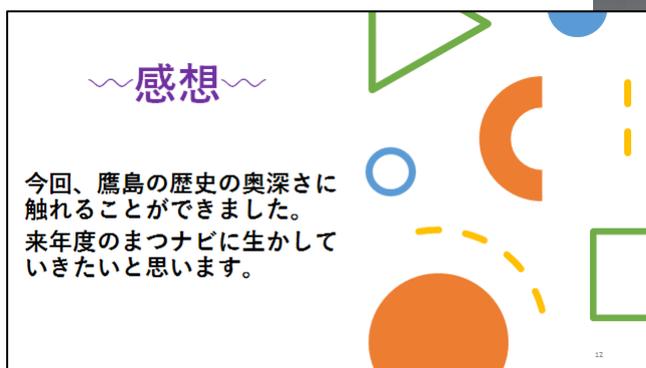
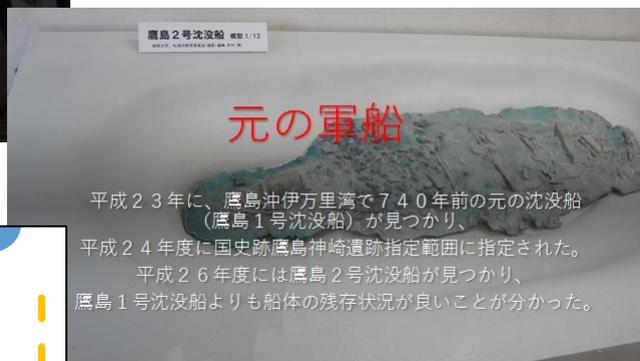
- ・不老山の名前の由来（不老不死の薬）
- ・流鏝馬 ・イチョウの木



今まで知らなかったことを学ぶことができ、流鏝馬などの**伝統**を**継承**していくことが大切だと思った。

11

◇島のルート（鷹島：モンゴル村）



◇生徒が準備した事前学習資料【元寇と鷹島】

鷹島は二度の元寇と深いかわりを持つ。文永の役では元軍が鷹島に上陸して住民を虐殺している。続く、弘安の役では平戸島から鷹島に進出してきた元軍に対して、集結した日本軍が攻撃を仕掛けて海戦となる。『心史』によれば、元軍は鷹島に上陸すると、日本軍の襲来に備えて、壘を築いて防備を固めさせた。当初、平戸島から太宰府目指して進撃する計画をたてていた元軍であったが、『元史』相威伝によれば、躊躇して進撃できなかったという。

このような中、台風が襲来し、元軍は大損害を被った。元軍諸将は軍議を開き、継戦か撤退か議論し、最終的に撤退に決する。諸将は頑丈な船を選び、兵卒を船から無理矢理下ろすと、乗船して兵卒を見捨て逃走した。鷹島に残された約10万の元軍は船を建造して撤退することにする。ところが鷹島に日本軍が襲来し、元軍は2、3万の捕虜を出し壊滅した。鷹島には、この鷹島掃蕩戦の激しさを物語るものとして、首除、首崎、血崎、血浦、刀の元、胴代、死浦、地獄谷、遠矢の原、前生死岩、後生死岩、供養の元、伊野利の浜などの地名に名残を残している。

この際に沈没した元軍船を巡って水中考古学の立場から調査が行われ、パスパ文字で作成された管軍総把印を始め、船舶に関する遺物や武器・武具などが多く発見されており、遺物がある南岸一帯（汀線から沖合200m、延長7.5km）は埋蔵文化財包蔵地として周知されている。

その一部は元寇終焉の地として松浦市立鷹島歴史民俗資料館や鷹島埋蔵文化財センターで見ることができる。

(4)研究テーマ設定

地域課題の解決に向けて、「自分ごと」として課題研究を進めることを目的として、これまでの学習を踏まえ、カリキュラム開発等専門家の助言及びコンソーシアムの支援を受けるなどして、次年度の課題研究テーマの設定及び研究班の編制を進めた。

■課題研究テーマ設定までの流れの概要

1月12日（火）自分の将来を考える

- ・冬休みにまとめてきた内容をクラスで発表し、協議する

1月19日（火）次年度の「まつナビ」の課題研究テーマを考える①

- ・クラス単位ではなく、個別に課題研究テーマを考えてみる

1月26日（火）次年度の「まつナビ」の課題研究テーマを考える②

- ・先週の続き

2月 9日（火）「課題研究テーマ設定のための研修会」①

- ・長崎大学井手先生による講義、類似のテーマで仮の研究活動班をつくる

2月16日（火）「課題研究テーマ設定のための研修会」②

- ・「20の思考スキル」についての講義、仮の研究活動班で協議

3月 2日（火）「課題研究テーマ設定のための研修会」③

- ・仮の研究活動班でポスターセッション

■課題研究テーマ設定1「冬休みの課題」

これまでの課題研究活動を通して興味・関心をもったことについて個人でまとめた。それらを1月12日（火）に提出した。また、各クラスで協議をして代表的なテーマを出し合った。

◇プレまつナビ [1月12日（火）] の進め方

1 準備 [3分]

(1)近くの席の4～5名で、グループを作る。

(2)筆記具と【自分の将来を考える】の課題プリントのみ机の上に。

→他人の発言で良いと思ったことは、メモをとるように指示。(プリントの空いている所)

(3)発言の際のルールについて、確認をする。

①他人の意見を批判しない。否定しない。

②他人の意見に触発され、連想したり、あるいは他人の意見に自分のアイデアを加えたりして、新しい意見として述べるのもあり。

2 活動 [40分]

(1)課題【1】について、意見を述べる。[5分]

(2)課題【2】について、意見を交換する。[10分]

(3)課題【3】について、意見を出し合う。[25分]

3 まとめ [7分]

(1)各グループに発表をさせる。

(2)課題プリントと模造紙を回収する。



【プレまつナビ】 MNP 冬休みの課題

★自分の将来を考える

自分の将来を考える

《提出日》1月12日（火） ※締切厳守



1年 組 番 氏名

裏面の分野の中で
興味のある番号を記入

--

1 将来、どんなことをしたいですか？

「こんな仕事をしたい」や「こういうことに挑戦してみたい」等、ゆっくりと考えながら書いてみよう。

今の段階で、自ら「無理かも？」とか諦める必要はありません。素直な気持ちで書いてみてください。

--

2 1のことをするために、松高卒業後、どのような道に進めばよいですか？

例えば、「〇〇系の専門学校に進学して、〇〇の資格を取得する」とか「〇〇大学〇〇学部に進学して研究する」等。

--

3 今年の「プレまつナビ」の活動や2年生の「まつナビ」の発表で、自分の進路と少しでも関係のあることや興味のあることを箇条書きで書いてみよう。

例えば、「炭鉱」「エネルギー」とか「水産」「流通」等、キーワードでも可。

<ul style="list-style-type: none">•••

◇「自分の将来を考える」集計結果（一部抜粋）

組	No.	テーマ	具体的な内容等（書ける範囲で）
1	1	教育や子育てから考える地域活性化	・小・中学校で交流をする。 ・子育てしやすい街作りを考えるために、松浦在住の親・就学前のこどもにインタビューをする。
	2	農業や漁業の振興	・田舎の良さを知ってもらえるような、旅行やサイクリングコース、里帰りキャンペーンを企画する。 ・松浦近海で何が獲れるか調べる。
	3	松浦だからできることのアピール	・マッカイトの交流、タータン、地産地消、料理、松浦特有の仕事
	4	松浦にこんなことあったらいいな	・不老山に望遠鏡を。エンマキと連携した寿司屋。セブンと連携した ・市民が運動できる場所。韓国にあるトレーニングジムのような施設。
	5	WEBサイトの立ち上げ、SNSでの発信	・空き家の活用、炭釜、タータン、マッカイトの交流等をアピール。 ・外国人観光客も意識して、多言語のものを。
2	1	国際交流	・市内に住む外国人の数 ・松浦市に観光に来る外国人の数 ・外国人が住みやすい町を調べる ・住んでいる外国人（中国人ベトナム人等）を招いて交流する
	2	病院・医療	・佐世保市の病院との違い
	3	幼児教育	・保育園と幼稚園の違い 今後どのような幼児教育が必要か
	4	地域活性化（お菓子屋等）	・どのような店がうけているか、売れるか、 ・ファッションブランドを考える？
	5		・（大手）企業にきてもらい、松浦でたくさんお金が回るようする。（企業誘致）
	6	地域活性化（スポーツ）	・スポーツ（野球、バスケット、テニス、卓球）
	7	地域活性化？（環境、安心安全）	・バリアフリー ・人の集まる場所を考える
3	1	松浦の観光業について	・アンケート ・図書館で調べる ・写真などをネットに載せる ・観光地への整備 ・ふるさと納税（返礼品）について ・現地に行く ・市役所の方に聞く
	2	幅広い年代の方との交流について	①もっと交流の場を増やす（保育園や老人ホームへ行って交流する） ②いろんな地域でアンケートをとる（離島の人などは交流があるのか）
	3	トラフグを有名にする	広報活動をする トラフグ料理を調べる（どこで食べられるか調べる）
	4	松浦のトラフグをもっと知ってもらおう	トラフグについて調べ、SNSに上げる
	5	子どもが住みやすい町づくりをしよう	①現在の松浦市の現状を調べる→市役所に行く、他の似たような市を比べる ②アンケートをとる→住みたいと思うか？実際に住んでみてどうか？
	6	フグについて	フグのからあげ以外の新しい料理を考える
	7	松浦市のお金事情	・市役所に行く（お金がいくらあるか？） ・平戸と松浦を比べる ・動画を作って、TIKTOKにのせる
	8	松浦市出身の高校卒業生の人口増減（進学・留学）	①市報、インターネット、市役所の人に聞く ②年毎に、〇人あたりの1人が松浦市から出ているか調べる。 ③どこに行っているか調べる。

■課題研究テーマ設定2「まつナビのテーマを考える」

クラスごとに興味・関心テーマを漠然と考えてきたが、これらを踏まえて「自分ごと」として、個別にテーマを考えてみる。



★まつナビのテーマを考える

【ブレまつナビ】 MNPレポート

まつナビのテーマを考える



1年 組 番 氏名

1 「『まつナビテーマ決め』にむけて……」の資料の中で、どの項目に一番興味を持ちましたか？

- | | |
|----------------|-----------|
| ① 教育・子育て・街づくり | ② 福祉 |
| ③ 旅 | ④ 国際交流 |
| ⑤ 松浦タータン | ⑥ 元寇サミット |
| ⑦ WEBサイト・SNS発信 | ⑧ なんでもデータ |

①～⑧の番号を記入。

2 先週クラスのグループで話し合った内容、「『まつナビテーマ決め』にむけて……」の資料や過去の先輩方のまつナビのタイトルを参考に、2年生で研究したいテーマについて自由に記述してください。

•

•

•

担任使用欄

◇「まつナビのテーマを考える」集計結果（一部抜粋）

組番	仮テーマ	意見①	意見②	意見③
101	松浦タータン	空き家のリフォーム＆再利用（ワーキングスペース）	もっとアジフライをPR	
102	福祉	実際に、幼稚園・保育園、小・中学校とコラボして、今の松浦の教育方法や他の地域との比較を考える	子育てへの取り組みに対する実際の親の感想	
103	旅	地域振興について。松浦の人口を増やすために都会の人を田舎に招待し、その良さを理解してもらおう、といった趣旨の旅行プランを考えたい。		
104	教育・子育て・街づくり	小・中・高生の学校への苦手意識や精神状態の調査、行きやすくなるような制度づくりなどを研究したい。	子どもの読書活動とかを推進する政策作り（図書館での体験）。	観光場所の盛り上げ
105	国際交流	松浦市に観光に来る外国人について調べる。（アンケートをしとみる。どのような層。）	韓国にあるトレーニングジムのような施設を松浦独自のものにする。	
106	WEBサイト・SNS発信	SNSを使って宣伝したい。		
107	なんでもデータ	火力発電から別の発電に変える案を考えたい。	空き家をどのように活用できるか考えたい。	松浦の産業について詳しく調べたい。
108	旅	国際交流で外国人と交流したい。	カジュアルキャンプin松浦	地域の活性化のためにSNSなどで発信したい。
110	教育・子育て・街づくり	教育や子育てから考える地域活性化。幼児教育。御厨保育園の児童に会いたい。	授業の集中力を高めるためにお昼寝をしよう！実際にしている国を調べ、小～高校の制度を変えちゃおう！	
111	国際交流	外国人に優しい町づくり		
112	国際交流	旅について更に考えを深めていきたい。今回調べたことを次に次にとつなげていきたい。	どのことについても、今あるものをより良くというのは、松浦市がしているだろうから、何か新しいことに挑戦していきたい。	「旅」、「なんでもデータ」のどちらかをした。
113	WEBサイト・SNS発信	松浦でサイトだけでなくYouTubeチャンネルを作って発信すればいいと思う。	漁業で松浦市で獲れる魚を明確にして、お菓子作りとコラボ。	新しくお菓子を作れないか、研究をしてみたい。サイクリングでマウンテンバイクを使えないか。
114	旅	高校生が関わられる成人式	スポーツ	年齢関係なく集えて、季節を感じられて遊具がある公園を作る。
116	教育・子育て・街づくり	近年の読書活動の低下を阻止したい！	平戸はふるさと納税で有名だけど、松浦は…？	外国人をよく見かけたり、マッカイ市と交流ある割には外国語表記をあまり見かけない…。
117	国際交流	“なぎなたの町、松浦”をPRしたい！	マッカイ市についてもっと知りたい！今松浦市のことについてもっと知りたい！	
118	なんでもデータ	空き家を減らしていきたい。	ふるさと納税を通してもっと松浦を知ってもらおう。	松浦の歩道をきれいにしたい！
119	教育・子育て・街づくり	小・中学校との交流について	小・中学校の教育について	小・中学生が松浦市についてどう考えているのか、について
120	WEBサイト・SNS発信	情報・魅力の発信について	新型コロナウイルスの影響を強く受けた事業を調査し、クラウドファンディング等で協力を募り、新しい製品を作る。その後、ふるさと納税の返礼品として活用し、松浦市、事業所両方の回復。	各町に名物を作る。（1つの町だけでなく他の町も回りたくい、意欲をもたせるために主となるものは同じ。例えば、各町特有のアジフライなど）
121	教育・子育て・街づくり	子育てしやすい環境づくり（自分たちで実際に学校や幼稚園などの現場を訪れ、インタビューや体験・見学をしてみたい）	松浦にしかない魅力のPR（マッカイ・松浦タータン・料理等）街頭インタビューなどをやる。自分たちで実際に見たり聞いたりして魅力を再発見する。	松浦の自然、観光、街づくり、国際交流（マッカイとの交流をもっと増やす）
122	旅	サイクリングコースをつくる。里帰りキャンペーンを企画する。	クラウドファンディングを利用する。（SNSで宣伝）	幅広い世代の方との交流。年配の方が住みやすい町。
123	旅	松浦の観光など（観光客の数、どうやったら観光客が増えるのか、施設）	SNS	松浦の水産の現状
125	教育・子育て・街づくり	「教育・子育て」で保育園や小・中学校と交流してみたい。	住みやすい場所にするために、アンケートをとってみる。	「農業や漁業」松浦では何が獲れているのか調べる。それをどのようにひろめるのが考える。
126	教育・子育て・街づくり	セブンイレブン等のコンビニと松浦の魚や松浦にある飲食店とコラボしてお金を回す。コロナの影響があるから。		
127	教育・子育て・街づくり	子どもが住みたい街		
128	国際交流	松浦の農業や漁業 松浦産の野菜、魚を別の都市で売ってもらおう。	地域活性化（特に、スポーツについて）	トラフグを広める。（松浦市以外の小中学校で提供する）

■課題研究テーマ設定3「課題研究テーマ設定のための研修会」

進路への結びつき（キャリア教育）も考慮しながら、生徒の主体性を考慮し、「自分ごと」の課題研究テーマ設定を導くための最終段階として、カリキュラム開発等専門家、長崎大学井手弘人先生による研修会を実施した。

「まつナビ」で鍛え、「まつナビ」から教科・科目の学びにも活用できる

20の思考スキル（「考えるための技法」）

続けられ、自分でもびっくりするような自分になる、5つのPOINT!

「まつナビ」はもちろん、授業、部活など、あらゆる松高生活の場を、
「はじめる前」・「最中」・「終わったあと」で以下の5つのことを考えながら、
記録（書き留めておく）し続けて、ときどき見返してみ、言えるようになっておくと、
自分でもびっくりするくらい、どんなことにも力がついて、結果が出るようになります。

1. 「今日はどの思考スキルをつかおうかな」
2. 「こういうとき、どの思考スキルを使うといいかな」
3. 「今日はどんな思考スキルをつかったかな」
4. 「思考スキルを使う前と後では、どんなことができるようになったかな」
5. 「どんな思考スキルをここで使っていくと、自分はできるようになるかな」

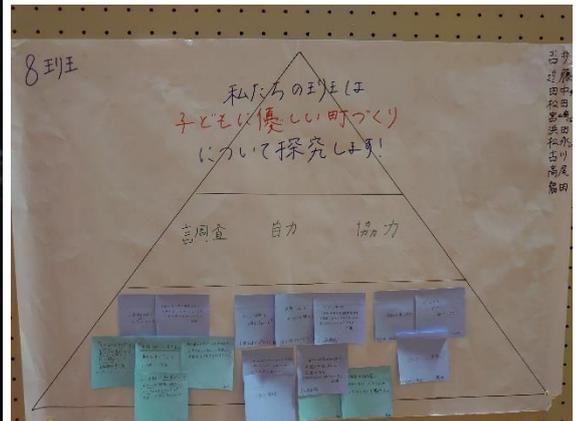
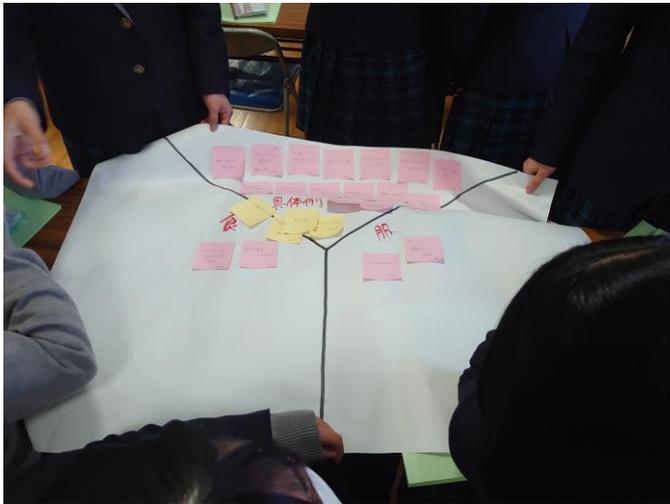
思考スキル	意味
関係づける	学習事項同士をつなげて示す
関連づける	視点や観点をもって順序付けする
多面的にみる	多様な視点や観点にたって対象を見る
分類する	属性に従って複数のものをまとまりに分ける
構造化する	順序や筋道、部分同士の関係を計画する
理由づける	意見や判断の理由を示す
見通す	行為の効果や影響についてのイメージをもつ
広げてみる	物事についての意味やイメージ等を広げる
変換する	表現の形式（文・図・絵など）を変える
変化をとらえる	視点や観点を定めて変化を記述する
比較する	物事を類比・対比することができる
評価する	視点や観点をもち根拠に基づいて対象への意見をもつ
要約する	必要な情報に絞って情報を単純・簡単にする
焦点化する	重点を定めたり軽重をつけたりして注目する対象を決める
応用する	既習事項を用いて課題・問題を解決する
抽象化する	事例からきまりや包括的な概念をつくる
具体化する	学習事項に対応した具体例を示す
順序立てる	学習事項と実体験・経験をつなげて示す
筋道立てる	物事を順序や構成に従って記述する
推論する	根拠にもとづいて先や結果を予想する

■ 課題研究テーマ設定のための研修会

◇ 長崎大学井手先生による講義（第1回）



◇ 類似のテーマで仮の研究活動班をつくる（第2回）



◇ 仮の研究活動班によるポスターセッション（第3回）



2-4 成果と課題

令和2年度の課題研究活動による、1年生の「プレまつナビ」の成果と課題は以下の通りである。

(1) 成果

- ①バスツアー計画等を行うことによって、地域ならではの課題についての基礎的な知識を得ることができた
- ②KJ法や課題研究テーマ設定研修会等を行うことによって、課題解決学習を進めるための基本的な技能を習得することができた。
- ③育成を目指す資質・能力を踏まえた、授業の公開及び振り返りが実施できた。

(2) 課題

- ①テーマ設定を計画的に進める必要がある。
 - ・地域の課題解決に向けて取り組もうとする意欲の高まりが十分でなかったとの課題を解決するために、生徒がキャリア・プランニングを念頭において、より主体的に課題研究テーマを設定することができる取組を、今後、行っていく。
- ②「まつナビ・プロジェクト」で育成を目指す資質・能力を踏まえた各教科における授業実践の一層の充実を図る必要がある。
 - ・校内研修を計画的に実施すると共に、校内公開授業月間の在り方の改善を図る。

3. まつナビ(第2学年)

3-1 研究開発のねらい

設定したテーマに基づき、コンソーシアムの協力を得るなどして、フィールドワークを含む課題研究を計画的に進め、課題研究発表会や市議会において課題の解決策等について提言を行うことで、地域を大切にする姿勢や課題解決能力の育成を図る。

3-2 令和2年度の実践活動

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
(1)研究テーマ設定	1回	1回										
(2)中間発表及び振り返り			2回	2回								
(4)フィールドワーク			1回	1回	1回		1回					
(4)本発表・松浦市議会発表及び振り返り							1回	3回	4回	1回		

3-3 実践報告

第2学年では地域課題解決を目指して課題研究活動「まつナビ」を行った。フィールドワークや地域との協働活動に基づく調査・研究・実践を進め、中間発表を行い、コンソーシアム等による評価を受けて、テーマ再設定や発表内容の修正後、本発表を行った。代表班（5つの班）は松浦市議会議場において、松浦市長及び市議会議員への提言を行った。

(1)研究テーマ設定

地域課題の解決に向けて、「自分ごと」として研究活動を進めることを目的として、これまでの学習を参考として、ファシリテーター等の支援を受けながら、テーマ設定を行った。

■年度当初の研修会



■年度当初の研修会についてまとめる





★テーマ設定のための基礎計画ワークシート

本時の 目標	1 「SDGs」について正しく理解する。 2 地域課題テーマに沿って、自分たちが何をするか、決定する。
-----------	--

班	リーダー：	サブリーダー：
部署	課	班員：
地域課題テーマ：		
地域課題を解決するために、自分たちにできそうなこと、取り組むとワクワクするようなことを、思いつくままに挙げてみよう。	自分が思いついたこと	
	班の中で出た意見	
タイトル決定		
SDGsの目標ターゲットでタイトルと結びつきそうなものを挙げてみよう。		

■指導者手引き

目標	<p>①「SDGs」について、理解する。</p> <p>②「SDGs」の取り組みがどういう意味を持つのか、理解する。</p> <p>③基礎計画の策定</p> <p style="margin-left: 20px;">a. まつナビで行ってみたいことを記入</p> <p style="margin-left: 20px;">b. 各自の行いたいことを説明</p> <p style="margin-left: 20px;">c. チームとして取り組みたいことを決定</p> <p style="margin-left: 20px;">d. 取り組みたい理由を決定</p> <p style="margin-left: 20px;">e. 「SDGs」との関わりと意味づけを考える</p> <p style="margin-left: 20px;">f. 到達目標と達成方法を決定</p>
----	--

◇進め方（令和2年5月26日（火））

時間	学 習 内 容	指導上の注意点
休み時間	<p>*できれば、時間前にリーダーと担当教員で確認をしておく。</p> <p>○体育館に移動</p> <p>15:05 リーダーを先頭に班ごとに整列。（間隔を広く取る。）</p> <p>15:15 ○「SDGs」について、説明を聞く。</p> <p>○教室へ移動</p> <p>サブリーダーは付箋とA3用紙を受け取って行く。</p>	<p>*SDGsのプリント配布。</p>
15:20	<p>展開① リーダーが、本日することを班員と確認する。</p> <p style="margin-left: 20px;">A 自己紹介およびテーマへの興味の確認</p> <p style="margin-left: 20px;">B 考えてきた「行ってみたいこと」の確認</p>	<p>*リーダーが司会。サブリーダーが記録。（基本毎回）クラス、氏名、出身中、部活動等、1人30秒で。（サブリーダーが時間を計る。）</p> <p>*担当の先生（松浦市の方）も自己紹介。</p> <p>*そのテーマを選んだ理由を簡単に1人30秒で。</p> <p>*1人30秒程度で。付箋を貼る際、内容の</p>
15:21	<p>展開① 自己紹介をする。</p>	
15:25	<p>展開② 自分がテーマのどのような点に興味を持ったのかについて、一人ずつ感想を述べる。</p>	
15:30	<p>展開③ 今回のまつナビで各自が行ってみたいこと（宿題で考えてきたこと）を5分間で付箋に記入する。</p>	
15:35	<p>展開④ 各自の付箋をA3用紙に貼りながら、各自が行</p>	

15:48	<p>いたいこととその理由を述べる。各自の発表について質問や詳しい説明を聞きたいことがあれば聞く。</p> <p>展開⑥「次時に向けて」を確認する。</p> <p>次時に向けて</p> <p>①本日の活動を、個人レポートに記入し、明日朝までに担当者に提出する。サブリーダーは班レポートも記入し提出する。</p> <p>②それぞれの取り組みについて、SDGsとのつながりを考えておく。</p> <p>③次の時間の確認：グループとしての取り組み（タイトル）を決定する。基礎計画シートを完成させる。</p>	<p>近いところに貼るよう促す。</p> <p>*今後進めていくテーマについて決めるのは来週でよいので、本時では全員のおおまかな考えを集約する。シートは現時点で書けるところまででいいので、一旦提出させる。</p> <p>*リーダーから説明。（不足があれば担当教員から補足。）</p>
-------	--	---

◇進め方（令和2年6月2日（火））

時間	学 習 内 容	指導上の注意点
15:35	<p>展開① リーダーが、本日することを班員と確認する。</p> <p>A グループとしての取り組み（タイトル）を決定する。</p> <p>B タイトルの理由を記入する。</p> <p>C 「SDGs」の目標と取り組みを結びつける。</p> <p>D 「到達目標」と「具体策」を決定する。</p>	<p>*できれば、時間前にリーダーと担当教員で確認をしておく。</p>
15:40	<p>展開② 前回のA3プリントを確認し、各自の付箋を関連のあるものをグループ化しながら付箋を貼り直す。</p>	
15:45	<p>展開③ グループ化されたまとまりについて、まとまりごとに共通するもの（こと）を言葉にしてA3用紙に記入する。</p>	
15:50	<p>展開④ いくつか出てきているはずであるまとまりの言葉から、グループとして取り組みたいもの（タイトル）を決定する。</p>	
16:00	<p>展開⑤ 取り組みの理由・根拠を、各自で考え、付箋に</p>	

16:05	記入する。 展開⑥ 付箋に書いたことを各自が発表し、文章を班で完成させる。	*付箋に書いたことをグループ化したり並べ替えたりして一つの文にする。
16:15	展開⑦ 自分たちが取り組むことが「SDGs」のどの目標・ターゲットと関連するか、検討する。	
16:22	展開⑧ 次時の確認 次時に向けて ①自班の取り組みが「SDGs」の目標を阻害するものになっていないか、各自で考えてくる。 ②次の時間の確認：基礎計画シートを完成させる。	*各自が付箋に記入し、グループで開き合う。 *目標・ターゲットは複数あってもよい。

◇進め方（令和2年6月16日（火））

時間	学 習 内 容	指導上の注意点
15:35	展開① リーダーが、本日することを班員と確認する。 A 「基礎計画シート」を完成させる。 B 研究の計画・担当を決めるなど、研究開始。	*できれば、時間前にリーダーと担当教員で確認をしておく。
15:40	展開② 「実現するために到達すべき目標」および、「目標を実現するための具体策」を考えて、付箋に記入する。	
15:45	展開③ 付箋に書いたことを各自が発表する。 展開④ 「基礎計画シート」の完成。 完成次第、研究の内容に入っていく。 (役割分担、調査内容、スケジュールなど)	
16:23	展開⑤ 「基礎計画シート（班レポート）」の提出および、次時の確認。 次時に向けて ○次の時間の確認：班の実態に応じて、各自がやっておくことがあれば確認。	*レポートはこの時間に完成させる。 *次時の確認はリーダーから説明。(不足があれば担当教員から補足。)

■テーマ設定の手順

◇松浦市役所（ファシリテーター）による研修会



◇研修で学んだことをまとめる



◇模造紙や付箋紙を使って、研究テーマを具体的にまとめていく



◇検討したテーマをパソコンにまとめる



(2)中間発表

課題研究の方向性等について検証することを目的として、研究の進捗状況等について発表し、コンソーシアム関係者等から助言を受けた。生徒は、研究の振り返りを行うとともに、以後の研究の進め方について検討した。



★実施要領

- 1 目 的
 - ①地域課題解決に向けての研究について、進捗状況を発表することで、生徒自ら研究の対象・目的・方法等について確認する機会とする。
 - ②フィールドワークのあり方など、今後の研究について専門家からアドバイスを受けることで研究の方向性を確かめる。
 - ③全体の前で発表することで、本発表に向けてよりよい発表のしかたを身につける。
- 2 日 時 令和2年7月8日(水) 5・6校時(13:25~15:15)
※全学年5校時と7校時を入れ替え
7校時終了後掃除・SHR
- 3 場 所 本校 体育館(2F)
- 4 対 象 松浦高校2年生(59名)・・・11班
- 5 内 容 ひと班あたり、発表を5分で実施する。
パワーポイントは使わず、書画カメラで資料を投影して発表する。
各班、A4・1枚の発表概要(基礎計画シート)を作成し、参加者に配布する。
- 6 参加予定 松浦市担当者 9名
コンソーシアム構成員 12名(本校校長除く)
運営指導員 5名
地域協働学習実施支援員 1名
カリキュラム開発等専門家 1名 計28名
- 7 会次第 進行 生徒2名
 - ①はじめのことば ②校長挨拶 ③概要説明 ④来校者紹介
 - ⑤前半発表(1番目~5番目)※発表と発表の間は2分程度空けて、移動や感想記入をする。
15分程度休憩(時間調節のため、変更あり)
 - ⑥後半発表(6番目~11番目)※前半同様に発表と発表の間は2分程度空ける。
 - ⑦講評
 - ⑧おわりのことば
- 8 準備物 プロジェクター、書画カメラ、ワイヤレスマイク(2本)、机(機材設置のための)、動画撮影用カメラおよび三脚、机・椅子(来校者用)

9 職員係分担

- 進行台本作成および進行指導
- 機器準備（マイク・プロジェクター・書画カメラ）
- 会場設営
- 発表概要および生徒記録用紙印刷
- 指導者および市役所職員など外部対応
- 生徒整列指導
- 掲示物作成および掲示（指導助言者など）
- 記録（写真および固定カメラによる動画撮影）

10 その他

○発表の内容について

発表は、基礎計画シートに沿って、以下の点について説明する。

- A 研究テーマおよびタイトル、その理由・根拠
- B SDGsの目標
- C 到達目標および達成方法（フィールドワーク計画を含む）

○発表の方法について

一班5分程度で発表を行う。なお、発表は必ず全員で行うこと。

（1分の目安は400字程度。なるべく「下を見ないで」発表すること。）

○発表概要について

7/2（木）までに提出すること。手書きも可。PC入力の場合はパソコン室のフォルダにある様式を用いること。



★評価シート（生徒・職員、コンソーシアム・運営指導委員等共通）

以下の評価シートを、発表を聞きながら記入し各班へフィードバックする。この評価シートをもとに、不足していること、必要なこと等を振り返り、フィールドワークの具体的な準備に入る。

『まつナビ』中間発表 評価シート				
組番	評価者氏名			
班	①2班			
テーマ	農家の労働機不足を解消するために			
評価項目	とても良い	普通	あまり良くない	良くない
発表者の姿勢・態度はよいか	4	3	2	1
資料は見やすかったか	4	3	2	1
タイトルの理由や内容はわかりやすいか	4	3	2	1
活動計画は適切か	4	3	2	1
感想やアドバイス（必ず書いてあげよう！）				

『まつナビ』中間発表 評価シート				
組番	評価者氏名			
班	②6班			
テーマ	まちに新しいお店を増やすためには			
評価項目	とても良い	普通	あまり良くない	良くない
発表者の姿勢・態度はよいか	4	3	2	1
資料は見やすかったか	4	3	2	1
タイトルの理由や内容はわかりやすいか	4	3	2	1
活動計画は適切か	4	3	2	1
感想やアドバイス（必ず書いてあげよう！）				

『まつナビ』中間発表 評価シート				
組番	評価者氏名			
班	③1班			
テーマ	福祉と長寿介護			
評価項目	とても良い	普通	あまり良くない	良くない
発表者の姿勢・態度はよいか	4	3	2	1
資料は見やすかったか	4	3	2	1
タイトルの理由や内容はわかりやすいか	4	3	2	1
活動計画は適切か	4	3	2	1
感想やアドバイス（必ず書いてあげよう！）				

『まつナビ』中間発表 評価シート				
組番	評価者氏名			
班	④5班			
テーマ	まちに新しいお店を増やすためには			
評価項目	とても良い	普通	あまり良くない	良くない
発表者の姿勢・態度はよいか	4	3	2	1
資料は見やすかったか	4	3	2	1
タイトルの理由や内容はわかりやすいか	4	3	2	1
活動計画は適切か	4	3	2	1
感想やアドバイス（必ず書いてあげよう！）				

『まつナビ』中間発表 評価シート				
組番	評価者氏名			
班	⑤7班			
テーマ	体験型交流事業をどのように発展させたらよいか			
評価項目	とても良い	普通	あまり良くない	良くない
発表者の姿勢・態度はよいか	4	3	2	1
資料は見やすかったか	4	3	2	1
タイトルの理由や内容はわかりやすいか	4	3	2	1
活動計画は適切か	4	3	2	1
感想やアドバイス（必ず書いてあげよう！）				

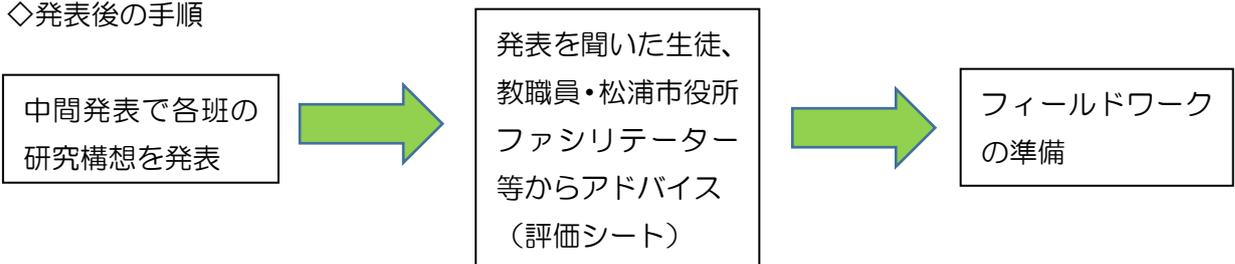
■中間発表テーマ

班	課題研究テーマ
1	ユニバーサルデザインで快適な暮らしにリサイクル
2	農業っていいね！！
3	フグ食う馬鹿 フグ食わぬ馬鹿
4	We love トラフグ
5	SNSでLevel Up!
6	Let's change the Matsuura
7	カジュアルキャンプ in 松浦 ～満足するような思い出をつくろう～
8	private night in Matsuura
9	空き家を利用して便利でにぎやかな町にしよう
10	市民交流プラザを松浦市で獲れる魚を知ってもらえる場所にしよう！！
11	タータン×松浦の魅力

◇中間発表の様子



◇発表後の手順



(3)フィールドワーク

今後の研究の充実に向けた情報の収集とコミュニケーション力の育成等を目的として、生徒が事業所等の見学や体験、インタビューなどを計画し、フィールドワークを行った。実施後、振り返りを行い、課題研究にその内容を反映させた。



★フィールドワーク計画

目標		＜フィールドワーク計画の作成＞ a.到達目標・達成方法の確認 b. 必要な資料のリストアップ c.フィールドワーク計画
学習内容		注意点
14:35	あいさつ（市役所担当から） 展開① 本時にやることの確認。 a. 前時の確認、b.今日の手順確認 展開② 「到達目標」や「達成方法」の確認 （前時のレポートより）	※「フィールドワーク計画での留意事項」を前日までに配布し、読んでおくように指示しておく。 ※展開⑤に時間を割けるように工夫する。 ・展開①～③の説明・指示はリーダーから。 ・サブリーダーで、A3用紙に「達成方法」を書いておく。
14:45	展開③ 「達成方法」実現に必要な材料（調査・インタビュー・アンケートなど）を各自考え付箋に記入し、A3用紙に貼る。 展開④ 付箋の中から、必要なものをリストアップし、まとめる。	※市役所担当及び教職員で「 <u>〇〇のよ うな資料もあるよ</u> 」とアドバイスをお願いします。 ・決まったことは本時のレポートに記入。
14:55	展開⑤ 7/30のフィールドワーク計画を作成する。 以下のことを念頭において、一日の計画を立てる。 ・場所 ・時間（移動時間や昼食の時間、開館時間を考慮する） ・フィールドワークの方法（アンケートか、インタビューかなど）と、何を明らかにしたいのか ・交通手段・費用・定員・役割分担	※「 <u>フィールドワーク留意事項</u> 」の大切なところを教員から簡単に説明する。 ・ <u>図書館及び3階第2PC室を利用してもよい。</u>

	<p>・準備しておくもの</p> <p>展開⑥ 次の時間(7/29(水))の準備の時間)までにやるべきことの確認。</p>	
次時に向けて		
<p>① 必要な資料の収集手段を考えておき、役割分担を決定する。</p> <p>② アンケート・インタビューなどの項目を検討しておく。 (「アンケートの調査方法」を配布し、熟読しておくように指示する。)</p>		

◇フィールドワーク(7月30日)実施計画

班	テーマ	8:45	9:00	9:30	10:00	10:30	11:00	11:30	12:00	12:30	13:00	13:30	14:00	14:30	15:00	15:30	16:00	終了時刻	交通費計
1	福祉+長寿	徒歩	福祉健康プラザ		市役所横施設			昼食・打ち合わせ		福祉健康プラザ		松浦駅		徒歩	学校	15:30		徒歩	
2	農林	車移動	守山ファーム				車移動&昼食休憩			カラフルファーム		車移動		学校		15:00		公用車(軽重(手島T))	
3	水産A	車移動			鷹島内事業所訪問他						車移動		学校		15:30		公用車(曾名)		
4	水産B	バス			佐世保駅		佐世保市役所		四ヶ町アーケード			バス		学校		15:30		バス 往復2,400×10名	
5	地域活性①A	徒歩	市役所	福祉プラザ		徒歩	駅	昼食休憩		ちあん		ほっとほっと		徒歩	学校	15:00		徒歩	
6	地域活性①B	徒歩	いすの木		商店街		商工会議所		昼食・打ち合わせ			ほっとほっと		グリーティール		徒歩	学校	16:00	徒歩
7	地域活性②A	車移動	柚木川内キャンプ場			車移動&昼食					白浜キャンプ場		車移動	学校	16:00		車(近藤T)		
8	地域活性②B	車移動			船	徒歩	川上さん(青島)		徒歩	船	車移動	荒木さん(皇鹿)		車移動	学校	15:30		公用車(曾名) 船 往復1,000円×5名	
9	都市計画A	徒歩	市役所	徒歩	学校	徒歩	商工会議所		移動&昼食			海のふるさと館 ハイマート		徒歩	学校	15:30		徒歩	
10	都市計画B	松浦駅	バス移動			パールシーリゾート 九十九島水族館(昼食含む) 松浦鉄道本社					バス移動		学校	16:00		バス往復2,800×3名 往復3,320×3名			
11	政策企画	徒歩	エミネントスラックス		徒歩	海ふる&ハイマート(二つに分かれる)		昼食		タイセイ印刷		移動		学校		14:30		徒歩	

■フィールドワーク活動例 2班課題研究テーマ「農業っていいね！！」

◇農業について質疑応答



◇イチゴ畑で実習（収穫作業）



◇ドローンによる農薬散布体験



◇市役所農林課訪問





★振り返り

<p>本時の目的</p>	<p>①<全体で>今日やることを確認 a. 今日の手順確認、b. 本発表に向けた手順確認、</p> <p>②<ここから各部屋に移動> a. フィールドワークの反省 b. フィールドワーク成果の整理と分析 c. フィールドワーク後の方向性と活動計画を確認 d. 今後の予定を確認 e. 礼状の作成</p>
<p>本時の進め方</p>	
<p><全体で> 展開① 本時にやることの確認。 a. 今日の手順確認 b. 10/23(金)の松鵬祭発表に向けた手順の確認 ※発表の内容 ひと班7分以内の発表+発表概要(A4で1枚) ①基礎計画のテーマ・到達目標・達成方法について ②フィールドワークの状況・わかったこと ③今後の展望・計画(提言に向けて)</p> <p><各部屋へ移動> 展開② フィールドワークの反省。 フィールドワーク個人レポートを基に、メンバー全員が発表。 ○よかったこと ○うまくいかなかったこと ○得られたもの チームとしてのまとめを、チームレポート用紙に記入。</p> <p>展開③ フィールドワークの成果についての整理と分析。 各班で必要な活動を行います。 ○アンケートの集計など ○調査・視察結果の分析</p> <p>展開④ フィールドワークの結果の整理。 ○わかったこと ○わからなかったこと</p> <p>展開⑤ フィールドワーク後の方向性/活動計画の確認。 基礎計画(基礎計画まとめ)を参考にする。 ○基礎計画のテーマ・到達目標は達成できそうか →できそうにない場合、どうしたらできそうになるか。 →テーマ・到達目標自体を変更した方がいいのか。 ○地域の課題や問題点が具体的に見えてきたか。 →見えない場合には、どうやったら見えるようになるか。 ○提言できそうなことは見えてきたか。 →見えない場合には、どうやったら見えるようになるか。</p> <p>展開⑥ 松鵬祭発表に向けた役割分担をする。 展開⑦ 「次時に向けて」を確認させ、次回までにやるべきことがあれば、グループレポートに記入する。 展開⑧ フィールドワークでお世話になったところへの礼状作成。</p>	<p>○個人レポートは事前に記入しておくこと。 ○この反省は、フィールドワークの「活動自体」の反省です。 ○フィールドワーク結果のまとめです。 ○フィールドワーク結果から、今後の方向性をさぐります。 ○客観性と理由づけが伴った提言をつくりあげることが最終的なゴールです。そのゴールにどうやったらたどり着けるか、計画を立てます。 ○全員が何らかの役割を担います。</p>

次時に向けて

- ① 本日の活動を、サブリーダーがチームレポートに記入し、個人レポートとともに提出します。
- ② フィールドワーク後の課題を解決に向けた計画や具体的方法について考えます。(必要に応じて夏休み中に個別の活動を行ってもかまいません。ただし担当の先生に確認を取ること。)
- ③ 次の時間の確認：研究を進め、松鷗祭発表に向けて内容をまとめます。

◇振り返り(例)

チームレポート

11 班	8/9 (日)	記録係	市	松高
提言への活動 I				
タイトル	9-9ン X 松浦の魅力 ※基礎計画を参照			
テーマ	松浦9-9ン9を7を活用し、松浦の魅力をj知ってcらうには? ※基礎計画を参照			
課題だてをcていること	アジフライの包み紙を9-9ン箱に入れてみる。↓ 直接、食p物に触れるのは衛生的に必ずかしく、費用がかかる。		9-9ン箱のお守りをつくり、部活の量販などに入れてもらう。↓ 費用がどなくらかかるとか、ゴミ料さんの拂がかかりか。 (ここでの「課題」とは、「地域課題」のことです。)	
課題解決のための提言・実践	アジフライの包み紙ではなく、商品などを入ける紙袋にしてはどうか。 (親が協会へ協力を依頼)		9-9ン生地 1m x 1.8m で 1700円かかり、費用がかかるとか、ほきれを集めて、柄は合せておいてみる。	
松鷗祭までの到達点	紙袋のデザイン完成 (大きさも含める)		お守りのデザイン完成 (大きさも含める)	
松鷗祭発表までの役割分担	取り組み内容	担当	リミット	備考
	お守りのデザイン	松浦小川	9/8	大きさも考える。費用を出す。
	紙袋のデザイン	志市・山本	9/8	大きさは大・中・小
	アンケートのグラフ作り	系頼	9/8	

まつナビ

↑ 足りなければ裏に記入



★チームレポートのフォームは松高 Web ページへ

(4)他県高校とのリモート協議

生徒の課題研究のより一層の充実を図るために、課題研究発表会の前に鹿児島県立大島北高等学校とのリモートによる意見交換や相互の研究発表会のビデオ交換を行った。また、事前にお互いの情報を交換して、その後の課題研究活動の参考にした。



★大島北高生のワークシート

鹿児島県立大島北高等学校&長崎県立松浦高等学校オンライン会議

高校名 鹿児島県立大島北高等学校	氏名 中山 南希
研究課題テーマ 観光客と地元の人々が共同して奄美の自然を守っていくにはどうしたらいいか？	
このテーマにしようと思ったきっかけ 島の内外の両面から奄美の自然を守っていくっていいと思ってるから。	
研究テーマの概要(簡単な説明) 観光客が来そうな海岸や観光施設に行き、アンケート調査をしたり、レタカで車が起りそうな場所をインタビューしました。このことから、国有種を守るために一般道での事故を減らす取り組みを考えていたが、駐車場での車取がほとんどであることがわかりました。さらに観光客は奄美が世界自然遺産を目指していることを知らないことがわかりました。	
活動を通して楽しかったこと フィールドワークで、観光客の方にいろいろ話を聞いたこと。	
現在苦労していること 思っていた結果と違うときに行き詰った。	

鹿児島県立大島北高等学校&長崎県立松浦高等学校オンライン会議

高校名 鹿児島県立大島北高等学校	氏名 三浦 幸太
研究課題テーマ 僕たちが住める大島系由とは。	
このテーマにしようと思ったきっかけ 大島系由について学ぶことが今の僕たちに必要だから。僕たちが住める大島系由の何が問題か。	
研究テーマの概要(簡単な説明) ・お店にインタビュー(どの年代に売れているか、何が売れているか)→softな、小物系(最近はおしゃれな服、221) ・北高生にアンケート→興味があるが値段が高くて買えない。→高校生が必ず着る(制)服に取っ手入るから高校生も考慮(ないといけな)い。	
活動を通して楽しかったこと 大島系由を着たが、すごく軽かった。	
現在苦労していること 制)服に取っ手入るから高校生も考慮(ないといけな)い。	

■大島北高校の様子





■松浦高校生のワークシート

鹿児島県立大島北高等学校&長崎県立松浦高等学校オンライン会議

高校名 松浦高校	氏名 熊本 萌花
研究課題テーマ デジタルキャンプ in 松浦	
このテーマにしようと思ったきっかけ 松浦にあるキャンプ場をもっと活気あるものにしたかったから。	
研究テーマの概要（簡単な説明） 松浦の杣木川内キャンプ場という所の改善点をフィールドワークやインタビューの話し合いで見つけ出し、誰かが気軽にキャンプに訪れることができるように、結果的に松浦の活性化に繋げたい。	
活動を通して楽しかったこと フィールドワークで班のみんなとキャンプ場の見学に行ったこと。	
現在苦労していること 発表に向けて、これまで研究してきたことをうまくまとめ、わかりやすくみんなの興味を引く発表にすること。	

鹿児島県立大島北高等学校&長崎県立松浦高等学校オンライン会議

高校名 長崎県立松浦高等学校	氏名 田代 萌李
研究課題テーマ ドラッグの知名度UP及び消費拡大のためには	
このテーマにしようと思ったきっかけ 水産業が盛んな松浦をもっと多くの人に知ってもらい松浦を盛り上げたいから。	
研究テーマの概要（簡単な説明） 松浦市鷹島町では「鷹島」ドラッグのブランドがありその鷹島という名をもっと有名にするべく、実際に育っている人へのインタビューをはじめ、行ったり街頭インタビューをして客観的に視察から具体案を立てている。	
活動を通して楽しかったこと ・皆と意見を話し合いそれについて全員で解決の方向に進み解決したとき。 ・フィールドワーク	
現在苦労していること 矛盾が多く生じやすいので何もどうすればいいのかわからず悩んでいます。	

■松浦高校の様子



南淡日日新聞

松浦高とリモート交流 研究テーマで意見交換 大島北高

奄美市笠利町の県立大島北高校（下高原涼子校長、生徒134人）は9日、テレビ会議システムを活用して長崎県の松浦高校とリモート交流会を開いた。授業の一環で地域探求活動を行っている北高の2年生7人と松浦高の6人が画面越しに意見交換。観光振興や特産品のアピールなどそれぞれの研究テーマについて活動報告し、改善策や解決策を探った。北高の2年生45人は総合的な探求の時間「アマンDay」内で班ごとに地域課題を設定し、課題解決に向けて年間を通して活動している。松浦高は文科省の2020年度「地域との協働による高等学校教育改革推進業（地域魅力化型）」の研究指定校で、地域探究活動の先進校。9日は各班の代表者がリモート交流会に臨んだ。生徒たちの研究テーマは松浦高が▽地元特産のトラフグの知名度アップ▽町に新しい店を増やすには▽キャンプ場の活用 | など。北高が▽若者が本場奄美大島紬に親しむには▽観光客と地元住民が協力して自然を守る方法▽奄美の地域医療の課題 | など。北高の生徒が「大島紬を制服に取り入れたいが耐久性などで工夫が必要になる」と相談すると、松浦高側から「スカートやズボンではなく、リボンやネクタイなどの小物として取り入れたらどうか」などの提案があった。

松浦高の「特産のフグの新ブランド化や既存のブランド活用がうまくいっていない」という相談に対しては、北高の生徒が「修学旅行で奄美のクロマグロ養殖場の見学ツアーに参加し、詳しく知ることができた。ツアー展開はどうか」「家族や友人に呼び掛けて協力してくれる大人を探し、企画の進め方について助言をもらっては」などと意見を述べていた。交流会には両校の活動に助言を行っている長崎大学教育学部の井手弘人准教授と学生2人も参加し、高校生たちへアドバイスした。

北高情報処理科2年生の中山南希さん（17）は「調べた結果が予想と違ってまとめ方に悩んでいたが、松浦高の生徒たちも同じように悩んでいると知って気持ちが楽になった。たくさん助言をもらったので研究につなげていきたい」と話した。両校は今後も交流会を開催するという。

(5) 課題研究発表

生徒がプレゼンテーション力や表現力などの発信力を身に付けるとともに、研究内容について松浦高校1年生及び松浦市内の小中学校の教職員等と共有することを目的として、課題研究活動の成果、実践についての発表会を松浦市文化会館において実施した。



■実施要領

1 目 的 本校で取り組んでいる「まつナビ・プロジェクト」は、地域との協働により、地域を素材にして課題研究に取り組み、本気で松浦の未来を担いたいと考える人材育成を目指している。

全学年で「まつナビ・プロジェクト（MNP）」を実践しており、県内の教職員等に対して1年次より継続している2年生の課題研究を中心に、MNPの取り組みを紹介し、地域課題解決型探究活動の普及の一助とする。

2 日 時 令和2年12月15日（火） 13:00～16:45

3 場 所 松浦市文化会館

- ・本発表；ゆめホール（収容人数：505名）
- ・運営指導委員会；小ホールA（収容人数：100名）
- ・コンソーシアム意見交換会；小ホールB（収容人数：100名）

4 対 象 松浦高校2年生（59名）・・・11班に分かれてグループ発表
// 1年生（97名）・・・発表の参観

コンソーシアム連携機関10名 カリキュラム開発専門家1名

地域協働学習実施支援員1名 運営指導委員5名 県事業管理機関2名

松浦市職員8名 県内高校教職員20名 市内中学校教職員10名

大学関係者3名（校外参加者60名） 合計216名

5 会次第

時間	生徒研究発表	会議等	備考
13:00～13:10	開会行事		県教委 校長
13:10～13:30	概要説明		生徒2名（3年生）
13:40～15:40	各班発表 （11班）		一班当りの発表・質疑応答等10分 （準備1分、発表7分、質疑応答2分）
15:40～15:50	講評・閉会行事		運営指導委員 校長
16:00～16:45		運営指導委員会	小ホールA
		コンソーシアム 意見交換会	小ホールB

6 新型コロナウイルス感染防止対策

(1) 生徒及び参加者全員検温を行って入場する。

- (2) 座席は一つ飛ばしで着席する（収容人数505人の会場に入場できる上限を、およそ半数の250人とする）。
- (3) 松浦市文化会館ゆめホールの出入口は終日開放する（換気のため）。
- (4) 各発表後にマイクの消毒を行う。
- (5) 会場入口付近に消毒液を設置する。
- (6) 校外参加について、県内高等学校、市内中学校等の教職員参加者は新型コロナウイルス感染状況に応じて参加制限をかける場合がある。

7 その他の留意点

- (1) 1週間前の12月8日（火）までに、松浦市文化会館で実施するか否か態度決定を行う。
- (2) (1) に関して、実施できない場合は、「3密」を避けるために、次の①もしくは②の形態で実施する。

①校外参加者を制限して実施する場合

日程は「5 会次第」に同じ。2年生は体育館で発表し、1年生はそれを見学する。運営指導委員会、コンソーシアム意見交換会は実施。その他の校外参加者はご遠慮いただく。

②本校関係者のみで実施する場合

日程は 13:00 開始、15:50 講評・閉会行事までで終了する。発表は会議室で行い、発表者以外の参観者は教室でリモートにて見学する。運営指導委員会、コンソーシアム意見交換会は実施しないが、運営指導委員にリモートによる講評をお願いすることもある。

◇課題研究発表順と課題研究テーマ

順	班	課題研究テーマ
1	3班	フグ食う馬鹿 フグ食わぬ馬鹿
2	5班	SNSでLevel Up!
3	9班	空き家を利用して便利でにぎやかな町にしよう
4	4班	We love トラフグ
5	10班	市民交流プラザを松浦市で獲れる魚を知ってもらえる場所にしよう！！
6	6班	Let's change the Matsuura
7	2班	農業っていいね！！
8	1班	ユニバーサルデザインで快適な暮らしにリサイクル
9	8班	private night in Matsuura
10	7班	カジュアルキャンプ in 松浦 ～満足するような思い出をつくろう～
11	11班	タータン×松浦の魅力

◇課題研究発表スライド例

農業って いいね！！

まつナビ2班プロジェクト
深見純矢・奥田和純・原玲央奈・松本未麗

基礎計画のテーマ 農業の労働力不足を解消するためには

到達目標 農業をやってみようかという気持ちにさせる。

達成方法 農業PR動画を制作して、皆に観てもらい、やってみようかなと思わせるようにする。



まつナビ2班
フィールドワーク概要

志佐町
守山ファーム
守山 清和さん
イチゴ苗の
肥料やり



御厨町
カラフルファーム
前田 裕治さん
しきみ農場見学



松浦市役所
農林課 江島香織さん
就農希望者への
支援策について



アンケートの概要

農業に関するアンケート

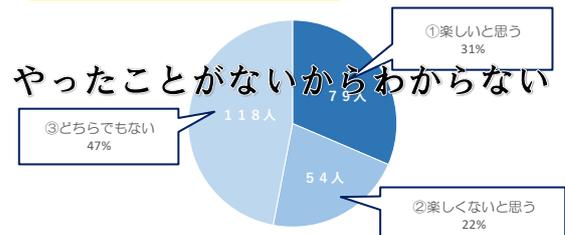
対象 松浦高校生徒 251人

アンケート実施日

令和2年7月31日

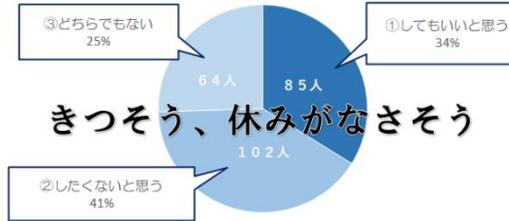
農業に関するアンケート (回答者数 251人)

(1) 農業を楽しいと思うかどうか



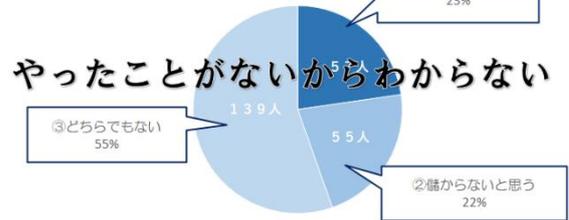
農業に関するアンケート (回答者数 251人)

(2) 農業をしてもいいと思うかどうか



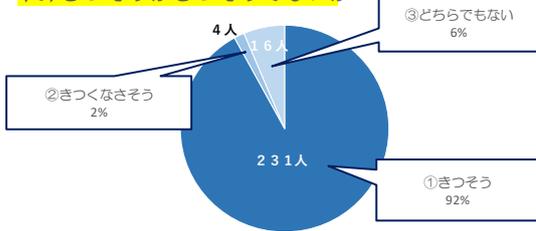
農業に関するアンケート (回答者数 251人)

(3) 儲かると思うかどうか



農業に関するアンケート (回答者数 251人)

(4) きつそうかきつそうでないか



農業に関するアンケート (回答者数 251人)

(1) 農業を楽しいと思うかどうか



農業に関するアンケート (回答者数 251人)

(2) 農業をしてもいいと思うかどうか



正直なところ何もわからない、
けれども、とにかくきつそうだ



農業をやりたくなったらどこに相談すればよいか? (3択)

- ①番 松浦市役所
農林課
農林振興係
新規就農相談窓口



■ 課題研究発表会の様子

◇ 3年生による概要発表



◇ ソーシャルディスタンスを保って参観



◇ 1年生による活動報告



◇ 3班「フグ食う馬鹿フグ食わぬ馬鹿」



◇ 9班「空き家を利用して便利でにぎやかな町にしよう」



◇ 11班「タータン×松浦の魅力」



(6)松浦市議会議場発表

松浦市の施策検討の際に生徒の提言を参考としていただくことを目的として、代表班が市議会議場において、課題研究の内容等を発表し、市議会議員からの質問に対して答弁した。

■松浦市議会議場発表の様子

◇代表5班による発表



◇松浦市長賞「農業っていいね」



◇松浦市議会議長賞「タータン×松浦の魅力」



◇松浦市教育長賞「ユニバーサルデザイン
で快適な暮らしにリサイクル」



◇松浦高校長賞「空き家を利用して便利で
にぎやかな町にしよう」



◇松浦高校長賞「SNSで Level Up!」



■まつナビ課題研究活動のまとめ(生徒による反省・感想)

1 テーマ・タイトル設定について

- ・2つの班が合わさったからこそターゲットを増やすことができた。(1班)
- ・わかりやすく伝わりやすいようにした。(2班)
- ・インパクトのある人の目につく工夫したタイトルだった。評価でも良いと言われた。(3班)
- ・タイトルは、班の皆が研究を行う中で、トラフグを好きになったので、もっと多くの人にも好きになって欲しいと思ってつけた。(4班)
- ・SNSは現代では利用する人が多いので、松浦の魅力や独自の制度を発信することで多くの人に知ってもらえることができるので、このタイトルにした。(5班)
- ・テーマ設定に少し時間がかかったが、全員でちゃんと話し合って決定できた。(6班)
- ・タイトルがあまり決まらずにたくさん迷ったが、メンバーで話し合いたくさんアイデアを出し合って決めることができたからよかった。(7班)
- ・松浦の民泊を意味しており、また国際化が進んでいるので英語を取り入れることで世界中の人が理解しやすいと思ってつけたタイトルだった。(8班)
- ・テーマとタイトルが結びつかないことがあった。松浦は空き家が多いので、そこに着目できたことは良かった。フリーマーケットで本当ににぎやかな町になるのか疑問だと思った。(9班)
- ・テーマとタイトルのつながりがあまりなかった。タイトルの変更がたくさんあり大変だった。(10班)
- ・世界に一つだけの松浦タータンを使った商品を使って、松浦タータンと松浦の魅力を伝えられるようにした。(11班)

2 中間発表・フィールドワークについて

○中間発表について

- ・資料準備が足りていなかった。原稿をずっと見てしまった。(3班)
- ・発表後に指摘を受けて、伝えることの難しさを知った。(6班)
- ・中間発表ではまだ具体的な目標が決まっておらず、何を発表するのかに迷ってしまった。目標は早く決める必要があると思った。(10班)

○フィールドワークについて

- ・課題を見つけることができた。(1班)
- ・フィールドワークを通して、農業についてイメージが変わった。(2班)
- ・佐世保と鷹島に行き、現状を知った。(4班)
- ・市内でお店を経営されている方々にインタビューをすることで、熱意が伝わった。意見をたくさん聞いた。(5班)
- ・実際に起業した人の話を聞いたことがとても良かった。(6班)
- ・松浦のキャンプ場と佐世保のキャンプ場の違いを比較でき、改善点を見つけることができた。(7班)
- ・自分たちが考えていたことがいろいろな都合でできなくなり、苦戦した。(11班)
※フィールドワークで見つけたことや気づいたことが研究の進歩になる。

3 課題研究発表(本発表)について

- ・原稿を覚えていれば良かった。(3班)
- ・他の班は独自で様々な取り組みをしていたが、自分たちはあまりしていないと感じた。(4班)
- ・ポスターの実物を見たいという声が多かったので完成させたい。松鷗祭の反省をもとにしてい

い発表ができた。(6班)

- ・リハーサルも十分にでき、不安なくすることができた。(8班)
- ・パワーポイントの見やすさを改善できた。(9班)
- ・実際に物があることでイメージしやすくなり、紙袋もお守りも高評価で良かった。

4 「まつナビ」の取り組み全体について

- ・自分たちで問題を見つけてそれについて研究するのは楽しかった。(1班)
 - ・自分たちにとって、発表する力などいろいろな力がついて良かった。(2班)
 - ・「トラフグ」について多くのことを知ることができました。(3班)
 - ・ゴールが見えなくてきついこともあったが、皆で協力して一つの物を完成することができたので良い経験になった。(6班)
 - ・松浦に住んでいても気づかないことにも「まつナビ」を通して気づくことができたので、とてもいい機会になった。(7班)
 - ・松浦を知ってもらうためにどのような取り組みをすればよいか考えることに苦戦した。まつナビを通して、自分たちも松浦や松浦タータンについて知ることができた。(11班)
- ※地域を知ろうとする気持ち、地域への愛着心を育むことができ、「問題発見→研究→解決を導く」という、探究学習の最も重要なことを知らず知らずのうちに学んでいた。

5 自分たちの取り組んだ活動は、テーマの達成に貢献できたか。それはなぜか。

○貢献できた。(6)

理由…松浦市の支援事業などについて広く伝えることができたので貢献できたと思う。

○貢献できなかった。(3)

理由…案はたくさん考えたが、すでに存在しているものばかりで新たな案を考えることができなかった。いろいろな物は作ったが、それを広めることができていないので。

○その他(3)

理由…貢献できたとは言えないが、PR動画が普及すれば少しは貢献できると思う。

3-4 成果と課題

令和2年度の課題研究活動による、2年生の「まつナビ」の成果と課題は以下の通りである。

(1) 成果

- ① 班別テーマに基づいて、コンソーシアム等の支援を受けながら研究活動を進めることができた。
- ② 地域の方々へのインタビュー等を踏まえた研究活動に多くの班が取り組んだ。
- ③ 課題研究発表会等での、課題の解決策等の提言を行うことができた。

(2) 課題

- ① コロナ渦もあり研究時間が不足した。
- ② 見通しを持って課題研究活動を進めていく必要がある。
- ③ 地域内での人的なネットワーク、Webを活用して広域における研究ネットワークづくりを行う必要がある。

4. ポストまつナビ(第3学年)

4-1 研究開発のねらい

2学年のときに行った課題研究を個人研究としてまとめるとともに、課題研究の内容について地元小中学生にプレゼンテーションし、「ふるさと学習」の成果の共有を図るなどの地域貢献活動を行うことで、卒業後の「まつナビ・サポーター」としての意識の向上を図るなど、地域に貢献する姿勢を育成する。

4-2 令和2年度の実践活動

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
(1) 2年次の研究成果に関するレポート作成・実践		1回	1回	1回				1回				
(2) 校内発表における提案事項の校外実践		1回										
(3) 小・中学校等における実践発表					1回						3回	

4-3 実践報告

第2学年の本発表で提言した内容に関する実践、「まつナビ・プロジェクト」全体を通じた振り返りレポート作成及び小・中学生を対象とした発表等を行った。

(1) 2年次の研究成果に関するレポート作成・実践

「自分と将来」について考えるとともに、ふるさとへの思いを大学進学や就職など実際の進路実現に反映させることを目的として、キャリアデザインを目的とする本校独自の「ポートフォリオ」に3年間の研究の成果を個人レポートとしてまとめた。なお、生徒の課題研究活動を充実させるために本校図書館で選書を行い、まつナビ・プロジェクトコーナーを設置した。

■図書館にまつナビ・プロジェクトコーナー設置



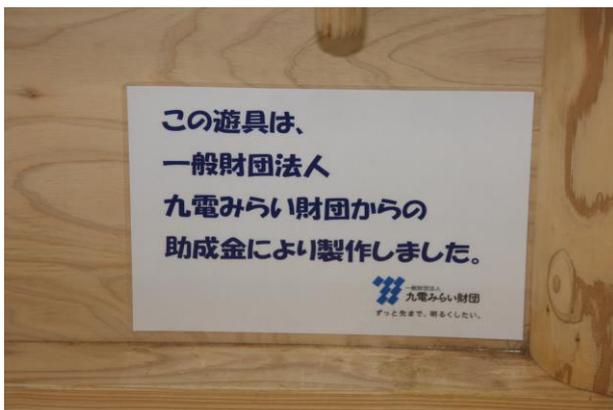
■選書は3年生が行った



(2) 校内発表における提案事項の校外実践

前年度の課題研究の実践の中で、地域の高齢者の団体と協働で作成した「幼児用木製遊具」を松浦市へ寄贈し、松浦市福祉プラザに設置した。

■ 贈呈式の様子



(3)小・中学校等における実践発表

小中学校との連続性のある、地域に関する学びを構築することを目的として、コンソーシアムの支援を受けて、市内小学3～6年生及び中学2、3年生の生徒に対して、これまでの地域課題解決学習の成果を発表した。

■松浦市立今福小学校訪問（令和3年2月17日（水））

◇「子育て支援について自分たちが知り松浦にPR」 ◇「松浦をタータンチェックに染めよう」



◇松浦市立御厨中学校訪問（令和3年2月19日（金））



4-4 成果と課題

令和2年度の課題研究活動による、3年生の「ポストまつナビ」の成果と課題は以下の通りである。

(1) 成果

- ①論理性を重視して、「ポートフォリオ」に個人の研究としてのまとめを行うことができた。
- ②地元小中学生の児童生徒と「ふるさと学習」の成果を共有し、啓発を行うことができた。
- ③卒業後に在學生（後輩たち）を支援する「まつナビサポーター」に向けた意識を育むことができた。

(2) 課題

- ①「自分ごと」としての研究活動の在り方を考え、キャリア形成（進路実現）とのつながりを強める必要がある。
- ②研究成果の発表だけでなく、共同学習等の連携等、地元小中学校との計画的な連携を進める必要がある。

第3章 研究開発の内容②(研究開発単位Ⅱ)

1. はじめに

1-1 研究開発単位の設定

まつナビ・プロジェクト（MNP）の研究開発の目的を達成するために、以下の開発単位を設定した。

Ⅱ コンソーシアムをはじめとする、地域課題解決型学習を組織的に支援する体制についての研究開発

1-2 活動目標

令和2年度の活動目標は、以下のとおりである。

地域課題解決型学習を組織的に支援する体制を新たに立ち上げると共に、具体的な研究支援を連携して進める

1-3 活動の概要

(1)地域との協働による探究的な学びを実現するためのカリキュラム・マネジメントの推進体制

「まつナビ・プロジェクト」を中心に据え、本校の教育活動全般において育成を図る資質能力を「課題発見力・テーマ設定力」「論理的思考力」「コミュニケーション力（傾聴、対話、発信）」と設定した上で、校内外のメンバーで構成される組織の協力を得ながら、地域との協働による探究的な学びの一層の充実を図ることを目的とするカリキュラム・マネジメントを推進した。

校内においては、各学年・分掌副主任で組織する「プロジェクトチーム」が中心となって、課題研究活動を含む校内外の教育活動全般の企画・実施・評価について検討した。また、松浦市政策企画課を加えた「ワーキンググループ」において、実施計画等について再検討の後、コンソーシアムに「まつナビ・プロジェクト」における活動内容等について報告し、今後の課題研究の進め方等についての協議を行った。また、運営指導委員会による指導助言等を踏まえ、「プロジェクトチーム」が中心となって、修正案を検討し、以後の計画等に反映させることで、生徒の深い学びの実現を目指してきた。

なお、「まつナビ・プロジェクト」の各取組については、「ワーキンググループ」での振り返りをほぼ毎回行い、その改善を図った。

(2)学校全体の研究開発体制について

年度当初に本事業についての職員全体研修を2回行った。1回目は研究開発の概要説明、2回目は質疑応答とし、全教職員が研究開発に参画することを目指した。

全教職員を生徒の課題研究のファシリテーターに位置付け、松浦市職員と協働して生徒の支援に当たることとした。生徒の支援にあたっては、「プロジェクトチーム」が中心となって事前に活動内容や方法について担当職員間で共有を図り、事後にはカリキュラム開発等専門家による助言等を

踏まえた振り返りを行った。

また、フィールドワークをはじめとする地域との協働活動においては、地域協働学習実施支援員がコンソーシアム等との連携を図りながら、教職員の活動を支援した。

(3)カリキュラム開発等専門家及び地域協働学習実施支援員の学校内における位置づけについて

カリキュラム開発等専門家及び地域協働学習実施支援員共に、臨時休業等により課題研究が実施できなかった4～5月を除き、月に2～4回来校し、次のような活動を行うことで学校内外における課題研究を継続的に支援した。

カリキュラム開発等専門家は、生徒課題研究への指導助言、課題研究発表会やバスツアー等に向けた生徒の活動でファシリテーターをつとめた教職員への助言等を行った。

地域協働学習実施支援員は、生徒及び教職員の活動をサポートするために、校内での打ち合わせを行った上で、コンソーシアムを含む学校外の課題研究の支援者との連絡調整を行った。

(4)学校長の下で、研究開発の進捗管理を行い、定期的な確認や成果の検証・評価等を通じ、計画・方法を改善していく仕組みについて

月に1～2回程度、「プロジェクトチーム」やカリキュラム開発等専門家等を含む「ワーキンググループ」のメンバーによる意見交換会を校長主宰で開催し、研究開発の進捗状況の確認等を行うとともに、課題研究全般の成果や課題等について検証し、その改善を図った。

(5)カリキュラム開発に対するコンソーシアムにおける取組について

コンソーシアムの構成メンバーである松浦市の職員が庁内研修の一環として、生徒の課題研究のファシリテーターとなり、本校教職員とともに生徒の支援に当たっている。

第2回会議（令和2年7月）では、松浦市長を座長に選出し、コンソーシアムの役割や支援の在り方について協議を行い、生徒の主体的な活動を支援していくことが承認された。

第3回会議（令和2年12月）では、コンソーシアム全体として課題研究の支援活動を行っていくために、コンソーシアム担当者会を設置することが決定された。第4回会議（令和3年3月）において、令和2年度の活動の総括及び次年度の取組について検討を行った。

(6)運営指導委員会等、取り組みに対する指導助言等に関する専門家からの支援について

運営指導委員会を3回開催し、事業計画の承認、生徒の課題研究発表を踏まえた事業の中間総括及び令和2年度事業全体の総括と次年度の課題研究計画に関する指導助言がなされた。

具体的には、課題研究中間発表に対して、生徒たちの主体性を感じた部分はあったが、試行錯誤を続けることによる今後の生徒の成長を期待する意見等が提示された。

また、課題研究発表会の成果として、コロナ禍により十分な活動時間の確保が難しい中、課題研究を深めた班が多くあったことがあげられた。課題としては、課題研究が提言にとどまり、実践に至った班が少なかったとの意見が提示された。

2. コンソーシアム

2-1 構成

■コンソーシアムの構成団体

機関名	機関の代表者名
松浦市	市長 友田 吉 泰
松浦市議会	議長 久 枝 邦 彦
松浦市教育委員会	教育長 今 西 誠 司
松浦市小中学校校長会	会長 大 内 康 仁
松浦市商工会議所	会 頭 稲 沢 文 員
松浦高校PTA	会長 反 田 隆 二
松浦高校同窓会	会長 藤 田 英 敏
長崎大学生涯教育センター	センター長 中 村 典 生
長崎県立大学地域連携センター	センター長 笠 原 敏 彦
エミネントスラックス株式会社	社 長 前 田 周 二
福岡カタリバ（オブザーバー）	理 事 原 水 敦
長崎県教育庁高校教育課	課 長 狩 野 博 臣
長崎県立松浦高等学校	校 長 小野下 和 宏

2-2 活動実績

■活動日程・活動内容

活動日程	活動内容
令和2年 5月25日	コンソーシアムを組織
令和2年 6月30日	第1回コンソーシアム会議 研究開発の概要及び年間計画について確認
令和2年 7月 8日	第2回コンソーシアム会議 2年生中間発表について意見交換。生徒の自主的な課題研究活動に積極的に関わるとの方向性を確認
令和2年12月15日	第3回コンソーシアム会議 課題研究発表会について意見交換。活動を実務面から支える担当者会を立ち上げ、活動することを承認
令和3年 3月23日	第4回コンソーシアム会議 本校における令和2年度「地域との協働による高等学校教育改革推進事業（高等学校における研究開発）」の取組について反省等を行い、次年度の研究開発に対する支援及び事業推進体制の構築を図る。

■第1回コンソーシアム会議（令和2年6月30日（火））

第1回会議の目的は松高における令和2年度「まつナビ・プロジェクト（MNP）」の取組について共通理解を図り、研究開発に対する支援への協力を依頼し、事業推進体制の構築を図ることであった。会議では以下のような意見交換が行われた。

【コンソーシアム会議で行われた意見交換の内容】

(1)地域との連携

（意見）このような大きなプロジェクトになって、コンソーシアムまで出来上がってきているので、ぜひ、小学生、中学生、地域等にしっかりと発信してほしい。

（実績）松浦市小中学校校長会（コンソーシアムメンバー）の支援により、令和3年2月に市内小中学校においてプレゼンテーションを実施した。

(2)コンソーシアムとしての支援

（意見）商工会議所としては、MNPの取組みにはぜひ積極的に参加し、一緒に研究や支援を行っていききたい。

（実績）フィールドワークにおいて、対応可能な事務所等とつないでいただいた。事務所等には生徒の研究活動に対して協力・支援していただいた。

（意見）大学としては、松浦高校生及び教職員と、教育学部で学ぶ学生の懇談会を開いて、交流をさせながら、教育に対しての課題とか思いというものを広げていくような、そんな取組みができないかということを考えている。

（実績）長崎大学が主催する松浦市勤務の現職教職員、長崎大学院生等とのリモート意見交換会に、教員志望の本校生徒が参加し、教職に関する協議等を行った。



■第2回コンソーシアム会議（令和2年7月8日（水））

第2回会議の目的は、中間発表の振り返りを関係者（市・学校を含む）で行い、各班生徒リーダーに伝えることにより、今後の生徒の研究の向上につなげることであった。

会議では、以下のような各班への具体的なアドバイスをいただいた。

【会議におけるアドバイス等 一部抜粋】

◇1班「（テーマ）ユニバーサルデザインで快適な暮らしにリサイクル」

(意見) 駅を切り口にして安全安心な街づくりを考えてみてはどうか。

(実績) 松浦鉄道松浦駅周辺とたびら平戸口駅の駅舎内部の比較し、研究を進め、発表した。

◇2班「(テーマ) 農業っていいね!!」

(意見) フィールドワークでは、松浦市の農業の起業家(モリヤマファームや松尾農園等)を訪問してはどうか。

(実績) 実際に生徒がモリヤマファームに予約を入れて訪問し、ドローンによる農薬の空中散布などを体験した。

◇6班「(テーマ) まちに新しいお店を増やすためには」

(意見) いかに関わることが当事者となって主体的に関われるかが鍵である。

(実績) 商工会議所等の協力を得て、市内の事業所に対して、自分たちが発信できることは何かを考えるために、松浦に事業所を開設した理由等のアンケート調査を行った。また、市役所地域経済活性化課の協力で、松浦市と協働して「松浦市に事業所をひらくPR動画」をSNS発信でするような提案を行った。

◇11班「(テーマ) タータン×松浦の魅力」

(意見) 松浦タータンチェックの認知度を広める工夫が必要である。

(実績) 制服にも使用されているチェック柄である「松浦タータンチェック」を地元企業のエミネントスラックス(コンソーシアムメンバー)と連携して松浦タータンチェック柄の紙袋を作成した。今後、お土産用の紙袋等にして、認知度を上げていく予定である。

■第3回コンソーシアム会議(令和2年12月15日(火))

第3回会議の目的は、まつナビ・プロジェクト(MNP)における第2学年の本発表の振り返りを行うとともに、今後のMNPへの支援の在り方について検討した。

【今後のまつナビ・プロジェクト(現1学年)について】

(1)課題及び解決の方向性

①1学年のテーマ設定の選択肢の増加させるために、コンソーシアム全体での松高生支援を行うことで意見が一致し、協議事項として具体的な対応について検討した。

②松浦市に多くを依存しているファシリテーター等の今後の在り方等を含め、組織的に松高生の主体的な活動を支援する方策を検討した。

(2)課題研究テーマ設定に向けて(現1年生 59回生)

従来、松浦市関係課による市の現況や課題を10項目程度の説明していただき、その中からテーマを選択し、班を編制していたが、松浦市関係課による説明に加えて、コンソーシアム参加団体による、「地元の課題」の提示する方向で検討することとした。

具体的には、ブースを設置した説明会に向けて、コンソーシアムから適任と思われる団体・個人を紹介していただくこととなった。松高生は、上記の説明等を参考にテーマを設定し、研究班を編制していく。

(3)研究活動（新2年生 59回生）

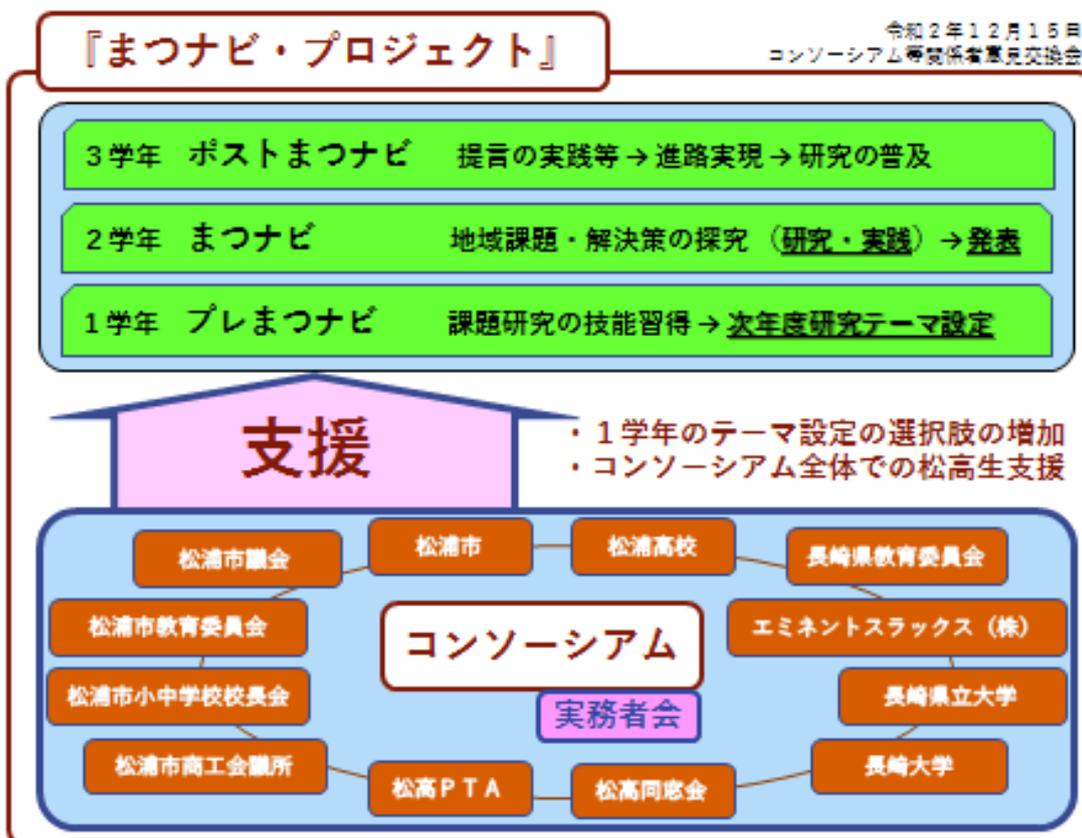
課題研究の班毎のファシリテーターは、松浦市職員及び松浦高校職員で協働して担当することとした。また、松浦市政策企画課は、関係課と松高とのコーディネートを中心に担当することとした。

また、関連のあるテーマについては、コンソーシアム関係の方々が「アドバイザー」となり、適宜生徒の支援にあたる。地域協働学習実施支援員がコーディネートを行う。

(4)協議事項

コンソーシアム内に具体的な支援の内容について検討を進める「実務者会」を新たに設置することを決定した。

■今後のコンソーシアムの支援等に関するイメージ図



3. 運営指導委員会

3-1 構成

氏名	所属・職	備考
佐々木龍二	長崎大学サテライトオフィス松浦・コーディネーター	学識経験者
吉本 諭	長崎県立大学・准教授	学識経験者
加藤 久雄	長崎ウエスレヤン大学・教授	学識経験者
川浪 剛人	自営業（前まつうら創生推進室長）	地域住民代表
山口 正隆	県企画部政策企画課 企画監	関係行政機関職員

3-2 活動実績

■活動日程・活動内容

活動日程	活動内容
令和2年 7月22日	第1回運営指導委員会 <ul style="list-style-type: none"> 令和2年度「まつナビ・プロジェクト」の事業計画を承認 課題研究中間発表に対して、生徒たちの主体性を感じた部分はあったが、試行錯誤を続けることによる今後の生徒の成長を期待する意見等が提示された。
令和2年12月15日	第2回運営指導委員会 <ul style="list-style-type: none"> 課題研究発表の成果と課題について協議。 課題として、テーマに関する研究、提言にとどまり、実践に至った班が少なかったとの意見が提示された。
令和3年 3月23日 (予定)	第3回運営指導委員会 <ul style="list-style-type: none"> 令和2年度の取り組みについて報告。 次年度の活動計画についての助言（予定）。

■第1回運営指導委員会（令和2年7月22日（水））における意見交換

- ◇（意見）旧松浦市に住んでいる生徒は鷹島や福島のことを知らない。できればいろいろなところへ行ってほしい。
 （実績）1年生が企画したバスツアーを実施し、市内外各地を見学した。
- ◇（意見）外部者から見た地域資源の活用。鷹島であれば、歴史的地理的いろいろな教育資源がある。
 （実績）バスツアーは4つのルートを作成し、そのうちの1つに鷹島ルート（島のルート）を設定した。
- ◇（意見）12月市議会発表について、市議会発表を市内の小中学生にも発信してほしい。
 （実績）令和3年2月に3年生が小中学校等を訪問し、課題研究のプレゼンテーションを行った。

- ◇（意見）卒業生のところへフィールドワークに行くのもよいのではないか。そこに地域とのつながりができる。
- （実績）商工会議所に松高同窓会長を訪問し、フィールドワーク等についてアドバイスを受けた。
- ◇（意見）新しい学習指導要領で中学生は対話的な学びはICTなどを使って学習するようになる。しかし、表現力のスキルアップにはアナログ的な教育が必要となる。これからはデジタルとアナログの両面を使った教育になっていく。
- （実績）次年度、1人一端末が導入される予定。積極的に活用し、広く研究ネットワークを構築する。
- ◇（意見）学びの基本になるのは「読書」。国語力、図書館教育にも力を入れてほしい。
- （実績）3年生による選書を行い、図書館にまつナビ・プロジェクトコーナーを設置し、1年生に活用を促している
- ◇（意見）市の総合計画などを指導することがあってもよいのではないか。市の総合計画作成には松高生も関わっている。
- （実績）1年生は松浦市政策企画課から1学期に総合計画の研修を受けた。

■第2回運営指導委員会（令和2年12月15日（火））における意見交換

【課題研究発表の意見・助言等】

- 各班ともコロナの中、しっかり発表ができていた。
- コロナ渦で仕方ないが、提案までで終わっていた班が多かった。もう少し実践までいける班があっても良かった。
- 本日の課題研究発表における審査を行った。以下が11班のうち、上位5位に選ばれた班である。

- 【1位】（2班）課題研究テーマ「農業っていいね！！」
- 【2位】（11班）課題研究テーマ「タータン×松浦の魅力」
- 【3位】（1班）課題研究テーマ「ユニバーサルデザインで快適な暮らしにリサイクル」
- 【4位】（9班）課題研究テーマ「空き家を利用して便利でにぎやかな町にしよう」
- 【5位】（5班）課題研究テーマ「SNSでLevel Up！」

なお、審査については、以下の認定NPO法人カタリバ「マイプロジェクトアワード」の審査基準で行った。

【評価基準】

前提：アクション（活動実践）

- ①：オーナーシップ（主体性）
- ②：コ・クリエーション（協働性）
- ③：ラーニング（探究性）

4. カリキュラム開発等専門家

長崎大学教育学部准教授 井手 弘人 氏

■実施日程・内容

活動日程	活動内容
令和2年 6月 9日	第1回ワーキンググループ協議会 ・令和2年度事業における活動計画について具体的な助言
令和2年 6月16日	生徒の課題研究活動 ・中間発表準備計画についての助言
令和2年 6月23日	管理職及び担当者との協議 ・まつナビ・プロジェクトと教科指導との連携の在り方について助言
令和2年 6月30日	第1回コンソーシアム会議 ・今後の生徒の活動とコンソーシアムの支援について助言
令和2年 7月29日 令和2年 7月30日	フィールドワークの前日及び当日の助言 ・教職員・ファシリテーターの支援の方法等について助言
令和2年 9月 9日	第2回ワーキンググループ協議会 ・2学期の活動計画について助言
令和2年 9月29日	管理職及び担当者との協議 ・今後の研究活動の内容・方法に関する助言
令和2年10月23日	松鷗祭（文化祭）2年生中間発表 ・中間発表を行った生徒活動班へ助言
令和2年11月10日	管理職及び担当者との協議 ・中間発表の検証及び助言
令和2年11月17日	1年生バスツアー ・バスツアーの検証及び助言
令和2年11月24日 令和2年12月 1日 令和2年12月 8日	生徒の課題研究活動等の助言 ・まつナビ・プロジェクト課題研究発表会について、教職員及びファシリテーターの支援の方法等について助言
令和2年12月15日	まつナビ・プロジェクト課題研究発表会 第3回コンソーシアム会議
令和2年12月22日	第3回ワーキンググループ協議会 ・今後の1年生のテーマ設定の方策等についての助言
令和2年12月24日	松浦市議会議場発表会

5. 地域協働学習実施支援員

日本教育公務員弘済会長崎支部 中上 徹 氏

■実施日程・内容

日程	内容
令和2年 6月 9日	第1回ワーキンググループ協議会 ・フィールドワークの日程の調整等
令和2年 6月16日	管理職及び担当者との協議 ・1年生「松浦市とのワークショップ」のサポート
令和2年 6月23日	生徒の机上活動 ・7月下旬のフィールドワークに関する希望等について 生徒からの聞き取り、準備等
令和2年 6月30日	第1回コンソーシアム会議 ・コンソーシアムとの連携の在り方について確認
令和2年 7月21日	教職員とフィールドワークについて打合せ
令和2年 7月27日 令和2年 7月29日	フィールドワーク準備 ・2年生フィールドワーク準備のサポート
令和2年 9月15日	第2回ワーキンググループ協議会 ・2学期の活動の中で、外部との連携について協議
令和2年 9月29日	バスツアー準備 ・1年生バスツアー関連の事業所等への連絡・調整
令和2年10月23日	松鵬祭（文化祭）中間発表
令和2年10月27日	管理職及び担当者との協議 ・今後の外部との連携について打合せ
令和2年11月10日 令和2年11月17日	バスツアー参加 ・事業所等との連絡、調整
令和2年11月24日 令和2年12月 1日 令和2年12月 8日	課題研究発表会準備 ・課題研究発表会に関する準備のサポート
令和2年12月15日	まつナビ・プロジェクト課題研究発表会 第3回コンソーシアム会議
令和2年12月22日	第3回ワーキンググループ協議会 ・1月以降の外部との連携について確認
令和2年12月24日	松浦市議会議場発表会

第4章 まつナビ・プロジェクトの検証、次年度に向けて

1. 今年度の目標設定についての検証

(1) 評価方法

地域課題解決型学習の成果と課題を明らかにするため、以下のような方法でアンケートを実施し、分析を行った。

- ①対象 全校生徒 253 名（1 年 96 名、2 年 58 名、3 年 99 名） ※2 回目調査
- ②時期 1 回目 令和 2 年 4 月（令和 2 年度の地域課題解決型学習実施前）
2 回目 令和 2 年 12 月（課題研究発表会実施後）

(2) 成果目標

- ①地域の課題を考え、その解決に向けて意欲的に取り組み、将来は松浦市に貢献したいと思う生徒の割合（今年度目標：75%）
未達成。4 月調査で全生徒の 24.4%、12 月調査で全生徒の 34.4%であった。
将来松浦市に貢献したいと考える生徒の割合が、地域課題解決型学習を経験するなどして、10 ポイント程度高まったことは成果と考えられるが、今年度目標には届いていない。
次年度の研究開発において、生徒が課題研究を「自分ごと」として進めることができるような取組を検討・実施する必要がある。
- ②高校卒業後に就職する生徒のうち、地元就職する生徒の割合（今年度目標：70%）
達成。令和 2 年度、本校から就職した生徒に占める、地元就職（長崎県内企業等）した割合は、81.8%であった。
地域課題解決型学習の経験などによる、松浦市をはじめとする県内の企業に就職し、地元で貢献したいとの意識の高まりが感じられる。
- ③高校卒業後に進学する生徒のうち、大学等卒業後に U ターンして就職したいと考える生徒の割合（今年度目標：50%）
未達成。4 月調査では全校生徒の 25.3%、12 月調査では全校生徒の 38.3%であった。
大学進学後にふるさとでの U ターン就職を考えている生徒の割合については、今年度目標は達成できなかった。しかし、地域課題解決型学習を経験するなどして、U ターンを考える生徒が増加し、大学進学希望者の 40%程度が「地元志向」するようになったことは、成果であると考えられる。
- ④大学等へ進学する生徒のうち、地域活性化や教員養成系に関わる学部・学科へ進学した生徒の割合（今年度目標：30%）
達成。今年度は 44.8%であった。経済活性化に関連の深い経済系の学部・学科に進学した生徒が多かった。
地域課題解決型学習と自らのキャリアデザインとを関連させることができるような取組について検討し、さらに実践を深めていく必要がある。

(3)地域人材を育成する高校としての活動指標

①学校外での活動回数（今年度目標：35回）

未達成。今年度は26回にとどまった。コロナ禍により、4～5月が臨時休業となったことに加え、地域課題解決型学習に関連する企業や組織等において、感染防止対策を進めていたことから、校外での課題研究を実施することが難しかった。

②先進校としての研究発表回数（今年度目標：3回）

達成。生徒の課題研究発表としては、10月文化祭での中間発表、12月松浦市文化会館での課題研究発表、松浦市議会発表を実施した。また、長崎県教育委員会主催による「令和2年度研究指定等に係る研究報告会」での発表をあわせ、計4回実施した。

③2年次の「まつナビ」の中で、フィールドワークにおいて地元の方にヒアリング・インタビューする生徒の割合（今年度目標：60%）

達成。フィールドワークに参加した2学年生徒の64.4%がヒアリング・インタビューを行い、その内容を課題研究に反映させた。

④高校3年間の中で、地域への貢献活動・まちゼミ・地域でのボランティア活動に参加する生徒の割合（今年度目標：90%）

達成。今年度の地域におけるボランティア活動参加率は98.8%であった。

(4)地域人材を育成する地域としての活動指標

①「まつナビ・プロジェクト」に関わった外部人材の人数（今年度目標：140人）

達成。生徒の班別課題研究におけるファシリテーターとしての支援やフィールドワークにおいて現地で支援していただくなど、今年度は175人の学校外の方々が「まつナビ・プロジェクト」に関わった。

②コンソーシアムの活動回数（今年度目標：3回）

達成。今年度は6月、7月、12月、3月の4回開催し、生徒の地域課題解決型学習に関する意見交換を進めると共に、具体的な課題研究への支援の在り方について検討を進めた。

2. 次年度に向けて(課題改善の方向性)

(1) 研究開発単位Ⅰについて

①課題：地域課題解決に向けて取り組もうとする意欲の高まり(主体性)が十分でなかった。

改善点：「自分ごと」として「楽しんで取り組む」課題研究としていく。

- ・学校設定科目(1・2年)及び総合的な探究の時間(1～3年)を使った課題研究を進める。
- ・キャリアデザインを踏まえた、課題研究テーマ設定を計画的に行う。(1年)

②課題：PC教室以外でのICTの活用が難しく、Webの活用やネットワークを介した協働が進まなかった。

改善点：次年度導入予定の「生徒一人1端末」を駆使した課題研究を進める。県内外の高校や大学等とのネットワークを構築し、課題研究に関する生徒の視野を拡大していく。

③課題：地域課題解決策の提案にとどまり、「高校生らしい実践」を進めた研究班が少なかった。

改善点：見通し(具体的な活動計画)のある課題研究とできるような支援を行う。

- ・実践を視野に入れた、班別の「活動計画」を立案する。
- ・「活動計画」及び進捗状況をチームとして検証・改善することによって、「試行錯誤」を恐れない姿勢を身につける。

④課題：「まつナビ・プロジェクト」で育成を目指す「資質・能力」を踏まえた各教科における授業実践の一層の充実を図る必要がある。

改善点：校内研修を計画的に実施すると共に、校内公開授業月間の改善を図る

(2) 研究開発単位Ⅱについて

①課題：コンソーシアムとの協働を一層進める必要がある。

改善点：「地域を大切に作る姿勢」の育成を組織的に進めるため、生徒の多様な課題研究への関与が可能となるような体制を構築し、継続的な支援を進める。

- ・小中学校の児童生徒との計画的な交流を進めるため、地元教育委員会及び小中学校校長会との協働を推進する。
- ・生徒のロールモデルとなり得る、地域の「素敵な大人」との交流を進めることができるよう、関係団体との連携を強める。

參考資料

1. 生徒の意識調査～今年度4月・1月実施アンケート調査結果～

本校の全生徒を対象に令和2年度当初（4月）と3学期上半（1月）にアンケートを行った。以下はその質問内容と結果である。

松浦高校・まつナビ（地域課題解決型学習）・アンケート

このアンケートは、松浦高校の生徒一人ひとりの意識の変化や、成長をみるためのものです。それぞれの質問に対して、以下の4～1の番号で答えてください。

4：とてもそう思う。3：まあそう思う。2：あまりそうは思わない。1：全くそうは思わない。

<松浦に関する知識>

- ア 松浦の歴史や文化について、知っている。
- イ 松浦の自然について、知っている。
- ウ 松浦の産業やその特色などについて、知っている。
- エ 松浦が抱えている問題点や課題について、知っている。
- オ 地域の課題解決の方法を、考えたことがある。

<ふるさとや松浦に対する意識>

- カ 自分のふるさとや松浦のことが、好きである。
- キ 自分のふるさとや松浦を、大切だと思っている。
- ク 地域の課題を解決したり、地域を活性化する活動に、興味を持っている。
- ケ 高校卒業後もしくは将来的に、自分のふるさとや松浦で就職したい。
- コ 地域の課題を考え、その解決に向けて意欲的に取り組み、将来は松浦市に貢献したい。

<自分のふるさとや松浦を訪れる人・Uターンで松浦に移住する人たちに対する意識>

- サ 自分のふるさとや松浦を訪れる人やUターンの移住者は大切な存在である。
- シ 自分のふるさとや松浦を訪れる人やUターンの移住者に興味や関心がある。
- ス 自分のふるさとや松浦を訪れる人やUターンの移住者から話を聞いてみたい。
- セ 自分のふるさとや松浦を訪れる人やUターンの移住者の存在は刺激になる。
- ソ 自分のふるさとや松浦を訪れる人やUターンの移住者から多くのことを学んでみたい。

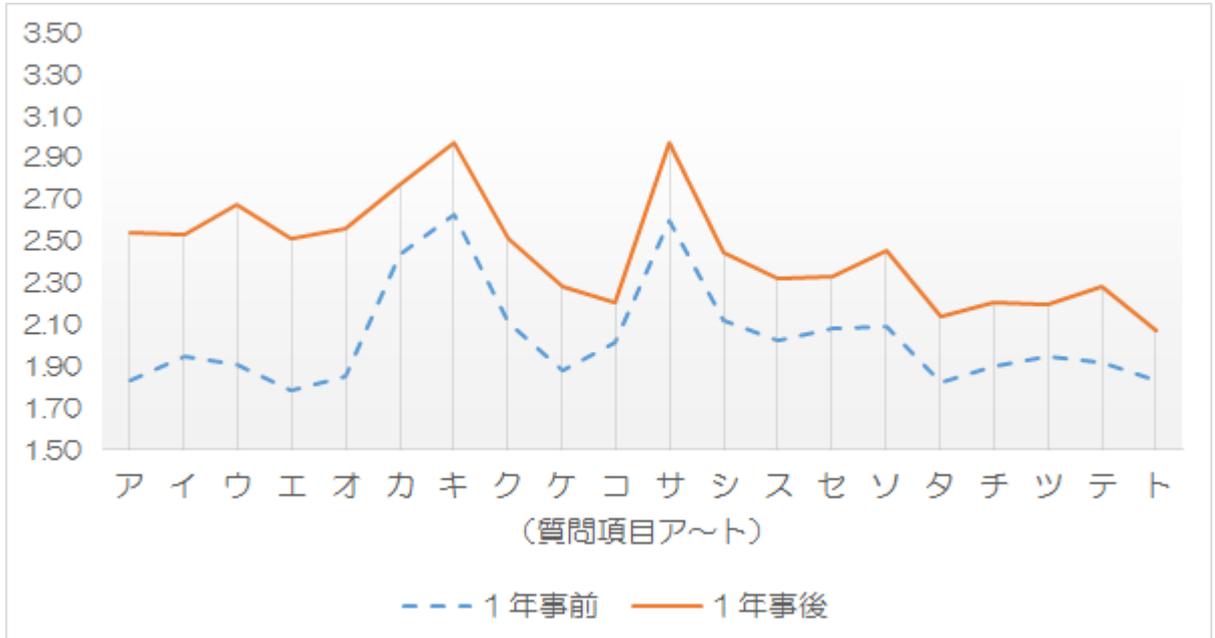
<自分の学力の分析>

- タ 自分は、地域でのヒアリング・インタビュー・アンケートを実施する力がある。
- チ 自分は、フィールドワークの結果を分析する力がある。
- ツ 自分は、地域の課題を改善する方法を考える力がある。
- テ 自分は、フィールドワークの結果や課題改善の方法をまとめる力がある。
- ト 自分は、フィールドワークの結果や課題改善の方法をプレゼンテーションする力がある。

■令和2年度の1年生

【質問キ】「自分のふるさとや松浦を、大切だと思っている。」と質問サ「自分のふるさとや松浦を訪れる人やUターン移住者は大切な存在である。」の平均値が最も高くなっている。また、全ての質問項目において、4月よりも1月のほうが上回っている。

◇各質問の平均値（最低値1～最高値4）



◇回答別の割合（単位：％）

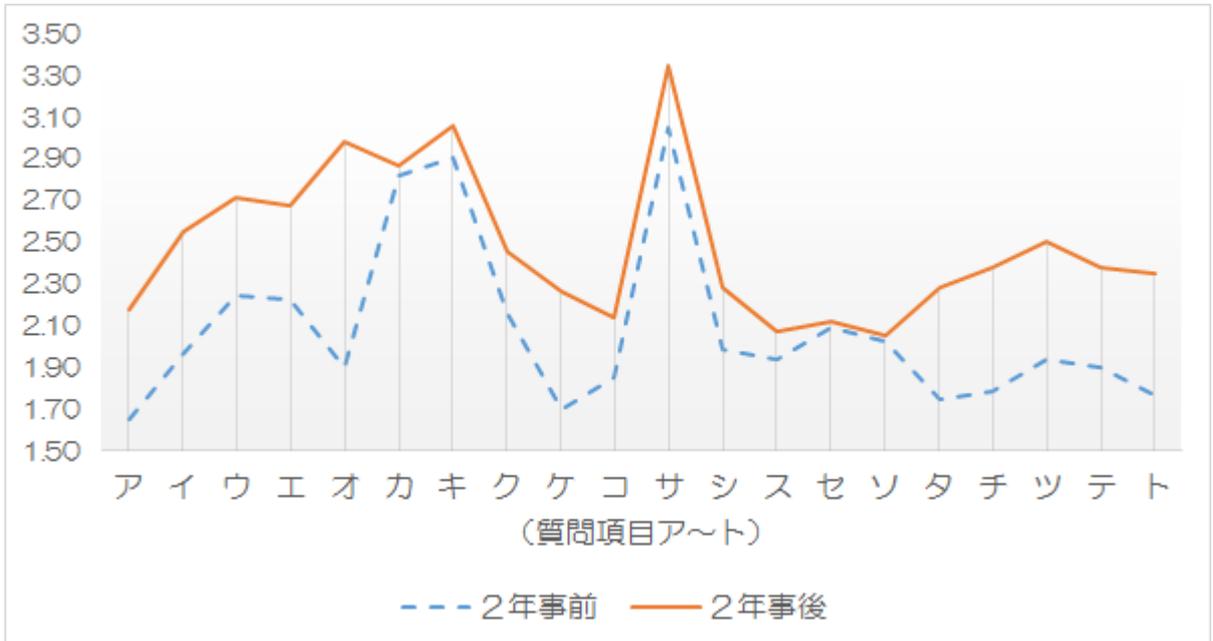
1年事前	ア	イ	ウ	エ	オ	カ	キ	ク	ケ	コ
1：全くそうは思わない	33.0	30.9	29.8	39.4	39.4	18.1	14.9	23.4	41.5	25.5
2：あまりそうは思わない	52.1	44.7	51.1	45.7	42.6	27.7	20.2	44.7	31.9	47.9
3：まあそう思う	13.8	22.3	18.1	11.7	11.7	46.8	52.1	28.7	24.5	26.6
4：とてもそう思う	1.1	2.1	1.1	3.2	6.4	7.4	12.8	3.2	2.1	0.0
1年事後	ア	イ	ウ	エ	オ	カ	キ	ク	ケ	コ
1：全くそうは思わない	6.6	7.7	4.4	12.1	15.4	5.5	4.4	8.8	17.6	17.6
2：あまりそうは思わない	37.4	37.4	29.7	33.0	27.5	24.2	14.3	36.3	41.8	46.2
3：まあそう思う	51.6	49.5	60.4	47.3	42.9	58.2	61.5	50.5	35.2	33.0
4：とてもそう思う	4.4	5.5	5.5	7.7	14.3	12.1	19.8	4.4	5.5	3.3

1年事前	サ	シ	ス	セ	ソ	タ	チ	ツ	テ	ト
1：全くそうは思わない	12.8	19.1	26.6	23.4	23.4	34.0	26.6	23.7	26.6	34.0
2：あまりそうは思わない	30.9	50.0	44.7	47.9	46.8	50.0	58.5	58.1	55.3	51.1
3：まあそう思う	40.4	29.8	27.7	25.5	26.6	14.9	13.8	17.2	17.0	12.8
4：とてもそう思う	16.0	1.1	1.1	3.2	3.2	1.1	1.1	1.1	1.1	2.1
1年事後	サ	シ	ス	セ	ソ	タ	チ	ツ	テ	ト
1：全くそうは思わない	7.7	12.1	16.5	15.4	14.3	22.0	17.6	16.7	16.5	22.0
2：あまりそうは思わない	14.3	38.5	39.6	40.7	34.1	45.1	48.4	50.0	41.8	51.6
3：まあそう思う	51.6	42.9	39.6	39.6	44.0	30.8	30.8	31.1	39.6	24.2
4：とてもそう思う	26.4	6.6	4.4	4.4	7.7	2.2	3.3	2.2	2.2	2.2

■令和2年度2年生

【質問サ】「自分のふるさとや松浦を訪れる人やUターン者の移住者は大切な存在である。」が最も高く、1年生よりもさらに0.3ポイント高くなっている。また、全ての質問項目において、事前よりも事後のほうが上回っている。

◇各質問の平均値（最低値1～最高値4）



◇回答別の割合（単位：％）

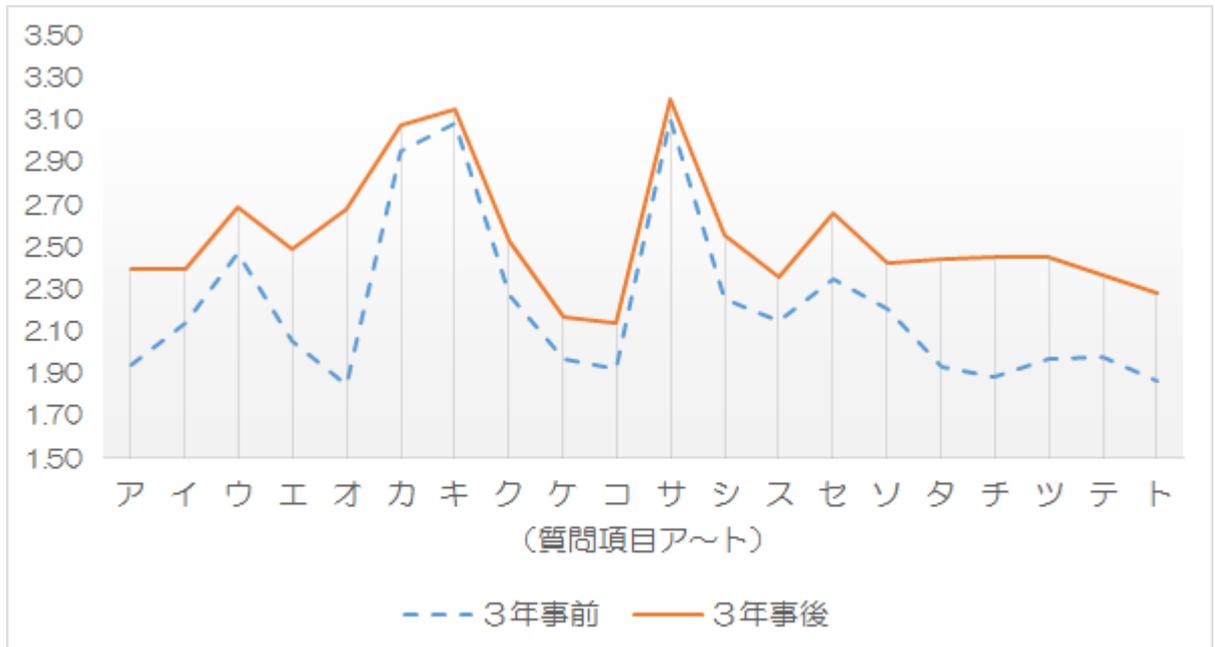
2年事前	ア	イ	ウ	エ	オ	カ	キ	ク	ケ	コ
1：全くそうは思わない	42.4	32.2	16.9	20.3	33.9	6.8	5.1	25.4	51.7	39.7
2：あまりそうは思わない	50.8	40.7	42.4	42.4	45.8	20.3	18.6	40.7	29.3	36.2
3：まあそう思う	6.8	25.4	40.7	32.2	16.9	57.6	57.6	27.1	17.2	24.1
4：とてもそう思う	0.0	1.7	0.0	5.1	3.4	15.3	18.6	6.8	1.7	0.0
2年事後	ア	イ	ウ	エ	オ	カ	キ	ク	ケ	コ
1：全くそうは思わない	15.5	8.6	3.4	5.2	10.3	1.7	1.7	12.1	22.2	20.8
2：あまりそうは思わない	51.7	37.9	36.2	34.5	17.2	20.7	10.3	43.1	38.9	49.1
3：まあそう思う	32.8	43.1	46.6	48.3	36.2	67.2	69.0	32.8	29.6	26.4
4：とてもそう思う	0.0	10.3	13.8	12.1	36.2	10.3	19.0	12.1	9.3	3.8

2年事前	サ	シ	ス	セ	ソ	タ	チ	ツ	テ	ト
1：全くそうは思わない	6.8	32.2	37.3	33.9	35.6	42.4	44.1	30.5	37.3	39.0
2：あまりそうは思わない	13.6	39.0	32.2	30.5	30.5	40.7	35.6	45.8	39.0	45.8
3：まあそう思う	47.5	27.1	30.5	28.8	30.5	16.9	18.6	23.7	20.3	15.3
4：とてもそう思う	32.2	1.7	0.0	6.8	3.4	0.0	1.7	0.0	3.4	0.0
2年事後	サ	シ	ス	セ	ソ	タ	チ	ツ	テ	ト
1：全くそうは思わない	1.7	19.0	24.1	20.7	24.1	13.8	8.6	3.4	12.1	10.3
2：あまりそうは思わない	1.7	39.7	44.8	48.3	50.0	51.7	48.3	50.0	46.6	53.4
3：まあそう思う	56.9	36.2	31.0	29.3	22.4	27.6	39.7	39.7	32.8	27.6
4：とてもそう思う	39.7	5.2	0.0	1.7	3.4	6.9	3.4	6.9	8.6	8.6

■令和2年度の3年生

1、2年生と同じようなグラフ形となっている。また、全ての質問項目において、4月よりも1月のほうが上回っている。[質問サ]「自分のふるさとや松浦を訪れる人やUターン者の移住者は大切な存在である。」に続き、[質問キ]「自分のふるさとや松浦を、大切だと思っている。」、[質問カ]「自分のふるさとや松浦のことが、好きである。」で数値が高くなっている。最も伸びた質問項目は[質問オ]「地域の課題解決の方法を、考えたことがある。」である。それ以外の[質問ア]～[質問セ]まで、大きな変化はなかったが、特に[質問ソ]～[質問ト]までの〈自分の学力の分析〉についての伸びが大きくなっている。

◇各質問の平均値（最低値1～最高値4）



◇回答別の割合（単位：％）

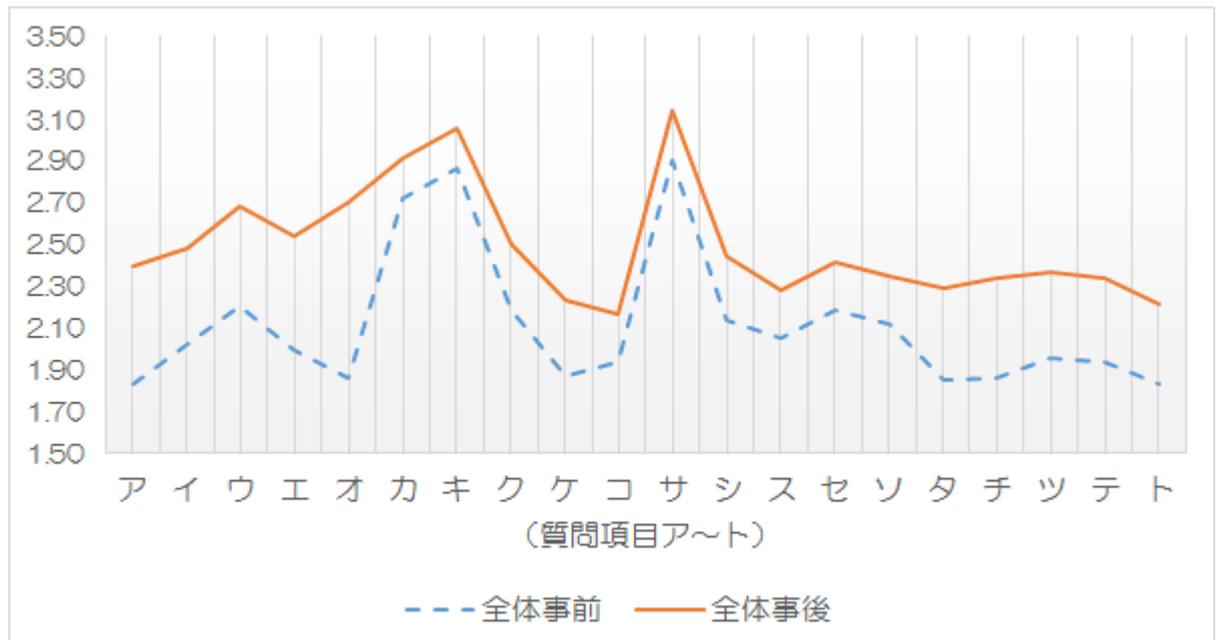
3年事前	ア	イ	ウ	エ	オ	カ	キ	ク	ケ	コ
1：全くそうは思わない	29.9	23.7	12.4	24.7	37.1	5.2	3.1	14.4	28.9	33.7
2：あまりそうは思わない	48.5	40.2	34.0	48.5	43.3	19.6	14.6	47.4	39.2	43.9
3：まあそう思う	19.6	35.1	48.5	23.7	17.5	50.5	53.1	35.1	27.8	19.4
4：とてもそう思う	2.1	1.0	5.2	3.1	2.1	24.7	29.2	3.1	4.1	3.1
3年事後	ア	イ	ウ	エ	オ	カ	キ	ク	ケ	コ
1：全くそうは思わない	12.1	9.1	4.0	6.1	9.1	3.0	3.0	9.1	24.2	23.2
2：あまりそうは思わない	41.4	45.5	33.3	43.4	35.4	10.1	12.1	36.4	38.4	41.4
3：まあそう思う	41.4	42.4	52.5	45.5	34.3	63.6	52.5	47.5	33.3	34.3
4：とてもそう思う	5.1	3.0	10.1	5.1	21.2	23.2	32.3	7.1	4.0	1.0

3年事前	サ	シ	ス	セ	ソ	タ	チ	ツ	テ	ト
1：全くそうは思わない	7.2	16.5	22.7	17.5	21.6	29.9	32.0	28.9	26.8	35.1
2：あまりそうは思わない	11.3	47.4	46.4	41.2	41.2	51.5	50.5	48.5	51.5	46.4
3：まあそう思う	45.4	30.9	24.7	30.9	32.0	14.4	15.5	19.6	18.6	15.5
4：とてもそう思う	36.1	5.2	6.2	10.3	5.2	4.1	2.1	3.1	3.1	3.1
3年事後	サ	シ	ス	セ	ソ	タ	チ	ツ	テ	ト
1：全くそうは思わない	3.0	10.1	13.1	6.1	12.1	8.1	6.1	7.1	7.1	11.1
2：あまりそうは思わない	9.1	36.4	44.4	32.3	39.4	45.5	48.5	46.5	53.5	53.5
3：まあそう思う	53.5	41.4	35.4	51.5	42.4	40.4	39.4	40.4	34.3	31.3
4：とてもそう思う	34.3	12.1	7.1	10.1	6.1	6.1	6.1	6.1	5.1	4.0

■令和2年度全体

全ての質問項目において、4月よりも1月のほうが上回っている。ただし、質問ケ「高校卒業後もしくは将来的に、自分のふるさとや松浦で就職したい。」や質問コ「地域の課題を考え、その解決に向けて意欲的に取り組み、将来は松浦市に貢献したい。」が全体的に低くなっていることは次年度以降の課題である。また、最も伸びたものが、質問オ「地域の課題解決の方法を、考えたことがある。」であり、この課題研究活動を通してその解決方法について、熱心に研究したことがうかがえる。

◇各質問の平均値（最低値1～最高値4）



◇回答別の割合（単位：％）

全体事前	ア	イ	ウ	エ	オ	カ	キ	ク	ケ	コ
1：全くそうは思わない	34.1	28.5	20.1	29.3	37.3	10.4	8.1	20.5	41.4	32.0
2：あまりそうは思わない	50.2	42.2	42.2	45.8	43.4	22.9	17.7	45.0	33.3	43.6
3：まあそう思う	14.5	27.7	35.3	21.3	15.3	50.6	53.6	30.5	22.5	23.2
4：とてもそう思う	1.2	1.6	2.4	3.6	4.0	16.1	20.6	4.0	2.8	1.2
全体事後	ア	イ	ウ	エ	オ	カ	キ	ク	ケ	コ
1：全くそうは思わない	10.9	8.5	4.0	8.1	11.7	3.6	3.2	9.7	21.2	20.9
2：あまりそうは思わない	42.5	40.9	32.8	37.7	28.3	17.8	12.6	38.1	40.4	44.7
3：まあそう思う	42.9	44.9	53.8	46.6	37.7	62.3	59.5	44.9	32.7	32.0
4：とてもそう思う	3.6	5.7	9.3	7.7	22.3	16.2	24.7	7.3	5.7	2.5

全体事前	サ	シ	ス	セ	ソ	タ	チ	ツ	テ	ト
1：全くそうは思わない	9.2	21.3	27.7	23.7	25.7	34.5	32.9	27.4	29.3	35.7
2：あまりそうは思わない	19.3	46.6	42.6	41.4	41.0	48.6	49.8	51.6	50.2	47.8
3：まあそう思う	43.8	29.3	26.9	28.1	29.3	14.9	15.7	19.4	18.1	14.5
4：とてもそう思う	27.7	2.8	2.8	6.8	4.0	2.0	1.6	1.6	2.4	2.0
全体事後	サ	シ	ス	セ	ソ	タ	チ	ツ	テ	ト
1：全くそうは思わない	4.5	13.0	17.0	13.0	15.8	14.6	10.9	9.8	11.7	15.0
2：あまりそうは思わない	9.3	38.1	42.9	39.3	40.1	47.0	48.6	48.8	47.8	53.0
3：まあそう思う	53.4	40.5	35.6	41.7	38.1	33.6	36.0	36.6	35.6	27.5
4：とてもそう思う	32.8	8.5	4.5	6.1	6.1	4.9	4.5	4.9	4.9	4.5

「まつナビ・プロジェクト」スタート



令和元年度まで第2学年だけで行っていた「まつナビ」を、令和2年度からは1年生(つまりまつナビ)から3年生(ポストまつナビ)まで、3年間を通して「まつナビ・プロジェクト」として、松浦市を中心としたふるさととの未来を考えた活動を行っていきます。また、令和2年度より文部科学省「地域との協働による高等学校教育改革推進事業(地域魅力化型)」の研究指定校に選ばれました。

まつナビ・プロジェクトだより



活動報告

昨年度、令和元年十二月二十四日(火)に松浦市議会で各班の考えた「松浦市を活性化させる」提案を行いました。

また、令和二年二月二十一日(土)福岡市で、九州内の高校生がお互いの研究・プロジェクトを発表する「マイプロジェクトアワード九州サミット(認定NPO法人カタリバ主催)」に、昨年度のまつナビ本発表(十二月十日実施)で選ばれた班(現三年生)が招待されました。

そこでは、制服にも採用されている「松浦タータンチェック」を用いた商品開発を、エミネントストラックス様の協力を得て、ステッカーシールなどの商品を考え、道の駅「海ふるさと館」様で実際に販売活動をした報告を行いました。

この発表は、ふるさとのことを思う、生徒たちの熱い思いが伝わる良い発表でした。

また、単なる発表にとどまらずに、他県の高校生と交流することで、生徒はとても刺激を受けたようです。

世代を超えてつながろう

現3年生7名が昨年度より、「世代を超えてつながろう」をテーマに松浦市を活性化させる活動を行っています。その一環として、高齢者の集いの場「みくりや駅前元気カフェ」の会員の皆様と星鹿町の奥野建設様の指導・協力を受けながら、木製遊具や

手作りの木製玩具を製作しました。

左の写真は今月5月8日(金)、松浦市へ生徒が作成した木製遊具の贈呈式が行われたようすです。新しく完成した松浦市市民福祉総合プラザ1階に設置されていますので、近くに来られたときにはぜひ、足を運んでみてください。



6月のまつナビ・プロジェクト活動予定

- 6月 2日(木) 15:35~16:25 「中間発表準備①」(第2学年)
- 6月16日(木) 15:35~16:25 「高大連携講座」(第3学年)
- 6月23日(木) 15:35~16:25 「中間発表準備②」(第2学年)

「松高の6月」も負けない2雨

まつナビ・プロジェクトをいよいよ

二年生「まつナビ」

二年生は、七月七日(火)の中間発表に向けて、各班で課題を出しあい、まとめました。その後中間発表で発表する内容の検討に入り、概要資料の作成に着手しました。また、緊急事態宣言が解除されたこともあり、長崎大学の井手先生と地域協働学習実施支援員の中上徹先生が来校されました。先生方は生徒にたくさんのご指導・助言をしてくださりました。



▲長崎大学井手先生からのアドバイス

一年生「プレまつナビ」

一年生では、「松浦市の現状とデータから見るまつナビ」と題して、「人口」「産業」「社会保障」「教育」「行政」の5分野について、松浦市役所政策企画課の松本行央さんによる講義が行われました。データに基づいた松浦市の課題について、さまざまな角度から学ぶことができました。



▲松浦市役所松本さんの講義

三年生「ポストまつナビ」

二年生で「まつナビ」を経験した三年生は松浦市の御協力のもと、市内の企業の活動について学びました。六月十六日(火)、十九名の参加希望者をバス2台に分け、新型コロナウイルス感染症対策を行い、松浦市内企業バスツアーとして、近江鍛工と中興化成工業の企業訪問を行いました。生徒は真剣に担当の方の話に耳を傾け、メモをとったり、質問をしたりしていました。最後に企業訪問で学んだ内容をまとめ、半日の日程を終了しました。



▲熱心にメモをとる1年生

生徒の感想



中興化成工業は、フッ素樹脂を主とした製品の製造・販売を行う企業です。例えば東京ドームの屋根を作っておられます。また、近江鍛工は新幹線の車輪部分を作っていることを知りました。どちらもこの松浦市から世界や大手企業などに向けて商品を作られており、「すごい」と思いました。

(吉井中出専 普通科 本山 健斗)



▲中興化成工業での講話

今後のまつナビ・プロジェクト活動計画

6月30日(火) 14:00~15:30	コンソーシアム会議
7月 7日(火) 13:25~15:15	中間発表
15:30~16:30	運営指導委員会及びコンソーシアム等意見交換会
7月30日(木) 08:25~16:00	フィールドワーク

たくさんの方々に支えられて・・・



▲友田市長様を中心としたコンソーシアム会議

松浦市をはじめとして、長崎大学など幅広い援助を受けながら生徒たちは活動を行っています。生徒たちの研究を支援することを目的としたコンソーシアム会議が六月三十日（火）に本校で開催され、「生徒が主体的な活動を進めることができるようサポートしていく」などの積極的な意見が出されました。

コンソーシアム会議

まてなギョ・ふロジエクトなび



▲各班（11プロジェクト）の発表

まてなギョ・中間発表

二年生は七月八日（水）に「まてなギョ中間発表」を行いました。今年度は十一班に分かれて、各班がこれから一年かけて取り組む研究テーマなどについて発表しました。これまではフィールドワーク後に中間発表を行っていましたが、今年を取り組む課題研究の内容を充実させるため

に、中間発表を行ってからフィールドワークを実施することとしました。今回の発表は「農業っていいね」「まさに新しい店を増やすために、松浦市が行っている支援活動を市内外に情報発信しよう」など昨年度までには見られなかった研究テーマや、昨年度の先輩たちの課題を引き継いだ「タータン×松浦の魅力」、「松浦の水産業をPRする」といった研究テーマについて発表が行われました。

また、コンソーシアムの方々も参加され、発表会後にご意見をいただく協議会を行いました。

発表後の振り返り

中間発表後七月十四日（火）に各班で振り返りの時間を設けました。発表後は、コンソーシアムの方々や松浦市のファシリテーターなどのアドバイスをいただき、生徒たちは次のステップ（本発表）に向けて検討すべき課題を把握することができました。七月三十日（木）は、今回いただいたアドバイスを参考に、課題解決に近づくための手がかりを得るため、市内外へ出かけ、街頭ア

今後の予定

○7月30日（木）

フィールドワーク

○7月31日（金）

振り返り

↓

本発表に

向けた準備



▲発表後に振り返りを行う生徒たち

ンケート調査や、事業所の方々の話をお伺いするなど、一日かけてフィールドワークを行います。

翌三十一日（金）はこれまで考えてきたことと実際に校外で調べたこととの比較を行い、再検討を進めます。今後、十二月の本発表に向けてまとめていきます。

少しずつ 研究を進めています



▲第2学年のフィールドワーク

フィールドワーク
七月三十日(木)第二学年では、「まつナビ・プロジェクト(MNP)」の活動の一つであるフィールドワークを一日かけて行いました。これまで活動を最小限にとどめてきましたが、対策を十分に行い、松浦市内を中心とした事業所へ行き、ヒアリングやアンケート調査などを行いました。学校へ戻ってから、データや写真の整理などを行い

ました。
二年一組長谷川運菜さん(御厨中出身)は、「私は、松浦のトラフグについて調べています。そこで、養殖場のある鷹島へフィールドワークに行きました。実際に自分たちも船に乗り、海上にあるトラフグを養殖しているポイントに事業所さんに連れて行ってもらいました。そこで一日を通して学んだことが二つあります。
一つ目はトラフグの養殖場の現状です。昔に比べるとトラフグの数も減っており、後継者となる人も少ないということです。また、トラフグが高価なものであるために「家庭ではあまりなじみがない」ということでした。二つ目は地元の方の優しさです。活動をしている私たちのために、たくさん御協力いただきました。これからは今まで以上に地域に感謝しながら活動を進めたいと思いをしました。」と話しています。

まつナビ・プロジェクト

県立長崎東中学校来校



▲長崎東中生による本校訪問

八月五日(水)に長崎東中学校の生徒2名が本校の「まつナビ・プロジェクト」の活動についての聞き取り調査のために来校しました。本校三年一組の百武歩さん(志佐中出身)と三年三組の首藤大典さん(平戸中出身)の二人が、対応しました。二人は中学生からの質問に熱心に答え、引率の吉田恵子教諭(長崎東中)からも、「ふるさとを語るその熱さに驚きました」と感想をいただきました。百武君は「少しでも中学校の活動の役に立てば嬉しい」と話してくれました。

MNPコーナーを設置



▲図書館の「MNP」コーナー設置

九月十八日(金)に本校三年二組の生徒が、ポストまつナビの活動として本校図書館で、「後輩たちに伝えたい、「まつナビ・プロジェクト」に関連する書籍コーナー」を立ち上げるための選書を行いました。松浦市の歴史やふるさと教育に関する文献だけでなく、介護や福祉など今日の松浦市が抱える具体的な問題に関する文献も多く探してくれました。ぜひ一度、図書館に足を運んでください。



MNP活動 後半戦へ突入

まつナビ・プロジェクトたいむらい

プレ発表会

十月二十三日（金）、本校の松鷗祭の一つである「文化祭」において、二年生十一班が四つの会場で、プレ発表会を行いました。

これは十二月十五日（火）のまつナビ・プロジェクト課題研究発表会の事前発表会であり、フィールドワークの結果報告や、これからの活動方針等を発表しました。

各会場には、一年生から三年生までの生徒が集まり、質問がたくさん出る、活気ある会となりました。参加者全員から各班に感想メッセージを渡され、それを参考に、前述の課題研究発表会に向けて準備を行います。

今年は松浦市文化会館ゆめホールで、一班あたり十分の発表（発表七分、質疑応答三分）を行います。新型コロナウイルス感染拡大を防ぐために、参観者を制限いたしました。



▲プレ課題研究発表会

プレまつナビ・バスツアー

十一月十七日（火）に一年生は「バスツアー」を行いました。これは今年からはじめてのプレまつナビの活動の一つで、三学期に行うテーマ設定の基礎資料を得るためのものです。今回は、バスルートを「島のルート」「水のルート」「街のルート」「陸のルート」の四つに分けて、そ



▲プレまつナビ・バスツアー

ぞれの希望ルートに分かれて活動を行いました。各ルートには、専門の案内人をお願いし、そのお話を聞いたり、地元の方や観光客にインタビューしたりするなど、生徒たちは熱心に活動することができました。

これから、この活動をまとめ、十二月八日（火）に校内報告会を行います。この後、一年生は本格的に二年生の「まつナビ」に向けて課題探究を進めるための「テーマ設定」を行っていきます。

オンライン協議会

十一月十八日（水）午後から、本校二年生の理系選択者6名と鹿児島県立大島北高校と第一回オンライン協議会を行いました。今回は双方はじめてのオンライン協議会であり、

日頃探究活動で苦労していること等の意見交換を行いました。最初に全員が自己紹介を行い、その後、本校二年一組の田代萌季さんが、本校の活動概要について説明し、大島北高校からの質問を受けました。第二回協議会は、十二月九日（水）に実施します。



▲第1回オンライン協議会

12月の主な活動予定

- 12月8日（火）
バスツアー報告会（1年生）
- 12月9日（水）
鹿児島県立大島北高校との
第2回オンライン協議会実施（2年生）
- 12月15日（火）
まつナビ・プロジェクト
課題研究発表会（1、2年生）



本冊子に掲載した
★のついたワーク
シート等は、本校
Webページから
ダウンロードでき
ます。



マスコットキャラクター
「まつドリー」

まつナビ・プロジェクト

検索



CLICK!